

令和３年度（2021 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告
（その１）

- 全国学力・学習状況調査
- （大阪府）すくすくウォッチ
- 箕面体力・運動能力・運動習慣等調査

令和３年（2021 年）１１月

箕面市教育委員会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要……………	1
------------------------	---

全国学力・学習状況調査の結果分析について

全国学力・学習状況調査について……………	10
令和3年度全国学力・学習状況調査＜概要＞……………	11
令和3年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校国語…	13
令和3年度全国学力・学習状況調査＜概要＞小学校算数…	15
令和3年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校国語…	17
令和3年度全国学力・学習状況調査＜概要＞中学校数学…	19
箕面市の児童生徒の「学習状況調査」結果から……………	21

（大阪府）すくすくウォッチ わくわく問題の結果分析について

令和3年度（大阪府）すくすくウォッチ＜概要＞わくわく問題（教科横断型問題）	27
---------------------------------------	----

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について

令和3年度箕面体力・運動能力、運動習慣等調査……………	29
各種目結果の学年別経年比較	
1年（小1）……………	30
2年（小2）……………	31
3年（小3）……………	32
4年（小4）……………	33
5年（小5）……………	34
6年（小6）……………	35
7年（中1）……………	36
8年（中2）……………	37
9年（中3）……………	38
運動習慣等調査の結果から……………	39
箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 まとめ……………	40

箕面子どもステップアップ調査の概要

1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

○全国学力・学習状況調査

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

府には、

○(大阪府)すくすくウォッチ

があります。

箕面市では、国・府の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

○箕面学力調査

○英検 IBA

○箕面体力・運動能力、運動習慣等調査

○学習状況・生活状況調査

○学校生活アンケート

箕面市では、これら国・府の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「箕面子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

箕面子どもステップアップ調査 (箕面学力・体力・生活状況総合調査)概要

		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力 調査	全国学力学習状況調査	5月						● 国・算			● 国・数
	すくすくウォッチ	5月					● 教科横断 的な問題	● 教科横断 的な問題			
	学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	10月									●
体力調査 (★は全国調査に参加)		4月～6月	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	●★ 8種目	● 8種目	● 8種目	●★ 8種目	● 8種目
生活 状況 調査	学 習 状 況 生活状況調査	6月・12月									
	学 校 生 活 アンケート	10月・2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 箕面子どもステップアップ調査内容

箕面市では、9年間の小中一貫教育を通して、子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため、平成24年度(2012年度)から全ての市立小中学校の全学年の児童・生徒を対象に、市独自の「箕面子どもステップアップ調査(箕面学力・体力・生活状況総合調査)」を実施しています。

この調査により、毎年、子どもたち一人ひとりの各学年における学力・体力・生活の状況を把握・分析し、教員の指導力・授業力を高めるとともに、翌年度の各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9年間を通して継続的かつきめ細やかに子どもたちの総合力の育成を進めます。

○調 査 の 目 的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○学 力 調 査

▼学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。

▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内 容

(1) 全国学力・学習状況調査

【6年生(小6)】 国語、算数

【9年生(中3)】 国語、数学

(2) (大阪府)すくすくウォッチ

【5、6年生(小5、6)】 わくわく問題(教科横断型問題)

(3) 箕面学力調査

【1～2年生(小1～小2)】 国語・算数

【3～4年生(小3～小4)】 国語・社会・算数・理科

【5～6年生(小5～小6)】 国語・社会・算数・理科・英語

【7～8年生(中1～中2)】 国語・社会・数学・理科・英語

なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施

※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査

(4) 英検 IBA

【9年生(中3)】 英検3級レベルを実施

○体 力 調 査

▼子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。

▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内 容

(1) 質面体力・運動能力調査……「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施

◎調査種目

【1～3年生(小1～小3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ

【4年生(小4)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン

【5～9年生(小5～中3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈

(2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査……全学年で実施

○生活状況調査

▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情*などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内 容

- ・ 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・ 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

3 報告の概要

この報告は、質面子どもステップアップ調査のうち、5月に実施した全国学力・学習状況調査と大阪府すくすくウォッチ、及び4月から6月にかけて実施した質面体力・運動能力、運動習慣等調査の市全体の結果の概要です。

各学校では、それぞれに結果概要を作成し、保護者に報告します。

4 箕面市の指標と目標値、実施済みの一部結果

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

令和3年度(2021 年度)の目標値と結果

1	全国学力・学習状況調査の結果	校種	学年	教科	目標値	箕面市	結果※
	＜指標＞ 全国学力・学習状況調査の学力調査の平均正答率 ＜目標値＞ 全国トップの都道府県の平均正答率を上回る。	小学校	6年	国語	71.0	68.0	●
				算数	74.0	73.0	●
		中学校	3年	国語	69.0	68.0	●
				数学	63.0	62.0	●
2	学習状況・生活状況調査	校種	学年		目標値	箕面市	結果※
	＜指標＞ 家庭学習の時間に関わる質問項目の回答結果 小学生：1時間以上 中学生：2時間以上	小学校	3年		45.4%	2学期に実施	
			4年		55.0%		
			5年		65.2%		
			6年		71.7%		
	中学校	1年		48.2%			
		2年		49.5%			
		3年		78.0%			
	3	学習状況・生活状況調査	校種	学年		目標値	箕面市
＜指標＞ いじめのサインに関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)		小学校	1年			2学期に実施	
			2年				
			3年				
			4年				
			5年				
			6年				
			小学校平均		85.0%		
中学校		1年					
		2年					
		3年					
		中学校平均		95.0%			
4		学習状況・生活状況調査	校種	学年		目標値	箕面市
	＜指標＞ 自己肯定感に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年		①成功体験と自信 (小)85.0以上 (中)80.0以上 ②充実感と向上心 (小)95.0以上 (中)85.0以上 ③感動体験 (小)75.0以上 (中)70.0以上 ④他者からの評価 (小)70.0以上 (中)70.0以上	2学期に実施	
			2年				
			3年				
			4年				
			5年				
			6年				
	中学校	1年					
		2年					
		3年					

5	英検IBA	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	<指標> 英検3級程度の力	中学校	3年	80.0%	2学期に実施	
6	箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	校種	学年	平均超えの種目数 ／全種目数	達成率	結果※
	<指標> 全8種目それぞれの男女別学年平均値 <目標値> 全学年・全種目で全国平均値を上回る。 ■種目 (1)握力 (2)上体起こし (3)長座体前屈 (4)反復横とび (5)20mシャトルラン (6)50m走 (7)立ち幅とび (8)ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール) ※男女別の集計ですので、各学年とも種目数は2倍になっています。	小学校	1年	1 / 6	16.6%	●
			2年	2 / 6	33.3%	●
			3年	2 / 6	33.3%	●
			4年	1 / 10	10.0%	●
			5年	5 / 16	31.3%	●
			6年	5 / 16	31.3%	●
		中学校	1年	0 / 16	0.0%	●
			2年	0 / 16	0.0%	●
			3年	0 / 16	0.0%	●
7	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	<指標> 学級環境に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年	①学級の規範意識 (小)80.0以上 (中)75.0以上 ②学級の絆 (小)80.0以上 (中)75.0以上	2学期に実施	
			2年			
			3年			
			4年			
			5年			
			6年			
		中学校	1年			
			2年			
			3年			
8	学校生活適応状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	<指標> 全学年での不登校(傾向)児童・生徒の千人率	小学校	1年	0.65	年度末に集計	
			2年	1.34		
			3年	2.1		
			4年	0.7		
			5年	3.41		
			6年	4.71		
		中学校	1年	10.94		
			2年	16.2		
			3年	15.21		
		平均値		6.14		

※ 結果の欄について、「◎」は目標達成、「●」は未達成を表しています。

※ 全国学力・学習状況調査結果の詳細については、P10・P11に掲載しています。

■ 全国学力・学習状況調査の結果

【結果】

学力調査は、小学校6年生を対象に国語・算数の2教科、中学校3年生を対象に国語・数学の2教科で行われました。

小学校、中学校ともに、全ての教科で全国平均及び府内平均を上回る結果となりましたが、全国トップの都道府県の平均正答率を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取り組みの経過】

調査ごとに結果を分析し公表してきました。分析で明らかになった課題については、各学校で子どもたちの実情に応じて取り組みを進めてきました。「学力向上には授業改善が不可欠である」との考えのもと、平成25年度より秋田県由利本荘市と盛んに交流することで学んだことや、授業研究を通して策定した「箕面の授業の基本」を市内全校で実施しています。

【分析】

(1)今年度の全国トップの都道府県と箕面市の全国学力調査の結果を比較すると、小学校では国語の「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題において正答率が約10ポイント下回り、箕面市の子どもたちの「情報を読み取り、条件に合うように表現する力」に課題があることが明らかになりました。また、中学校では、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題の正答率が、全国トップの都道府県より大きく下回りました。これらのことから、中学校では「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすること」において課題があることがわかりました。

算数・数学では、約半数の問題で全国トップの都道府県の正答率を上回りました。しかし、中学校では「相対度数の必要性和意味の理解」に係る問題の正答率が10ポイント以上下回りました。また、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を説明する」問題の正答率が他の問題と比べて低く、「必要な情報を得て、説明すること」に課題が見られました。

(2)調査結果の分析で明らかになった課題を焦点化し、その課題の解決のため具体的な目標を立て、達成のための指導内容や指導方法を全教職員で共有し、子どもたちの学力の状況をきめ細かく把握しつつ、日々の授業で継続的に地道な取り組みを進めていきます。

■ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

【結果】

1年生から9年生まで男女別で調査した種目の総数は、108種目です。その内、全国平均を上回った種目数は16種目で、全体の14.8%でした。全学年、全国平均を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取り組みの経過】

本市の体力が全国を下回ることが明らかになったときから、体力向上にむけた計画を策定してきました。その一環として、体力向上用具の配付や体力向上ボランティアなどの取り組みを行ってきました。また、昨年度から、小学校では、全校統一のカリキュラムのもと、副読本を活用した体育授業をすすめ、子どもの「わかる・できる」を大切に、体力向上とともに運動への意欲向上に努めています。

【分析】

(1) 全体的に全国平均に比べて低い結果が見られました。しかし、小学校の学年や男女別によっては、全国平均値を上回る種目が見られます。また、体育科の授業改善を進め、体力向上に取り組んできた成果が、各学年の経年比較から表れている種目もあります。

(2) 運動習慣等調査と体力合計点の関係で、運動のコツやポイントをつかむことができる子どもたちは体力合計点が高いことから、子どもたち自身が主体的に学ぶ姿勢を大切に、体育の授業を実施していきます。また、体力向上モデル校の実践を各校に広げていきます。

■大阪府新学力テスト「すくすくウォッチ」の結果

【わくわく問題(教科横断的な問題)とは】

特定の教科の枠にとらわれない教科横断型問題で、文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題です。答えは、記号を選んだり、文章を書いたり、図に色をぬったり、絵をかくたりします。答えが1つでないものもあります。

【分析】

(1) すべての領域、観点、問題形式で大阪府の平均正答率を上回る良い結果となりました。中でも、「興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える」問題や「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える」問題の平均正答率が高く、自分で考えたことを伝える力が身につけていることがわかります。しかし、「資料の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える(プログラミング的思考)」問題は平均正答率が低く、課題が見られました。

(2) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するため、各教科で学んだことを生かして、自ら課題を見つけ、情報を集めて、友だちと知恵を出し合い、解決策を考える活動に各校で取り組んでいきます。

令和3年度(2021年度)箕面子どもステップアップ調査 全国学力・学習状況調査について

1 実施日

令和3年(2021年)5月27日(木曜日)

2 調査対象

市内公立小学校6年生全児童及び、中学校3年生全生徒

3 調査内容

学力状況調査

学力状況調査(小学校6年生:国語、算数)

学力状況調査(中学校3年生:国語、数学)

児童学習状況調査及び生徒学習状況調査

4 参加人数

小学校6年生:14校 1,367人

中学校3年生:8校 1,175人 計2,542人

5 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上に向けて連携した取り組みにつなげる。

6 公表の方法

- (1)本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2)個々の学校名を明らかにするなど、学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表を行わない。
- (3)各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

7 公表の手段

(1)教育委員会

教育委員会ホームページ

(2)各学校

- ①各校の実情に応じて「学校(学年)だより」などで説明
- ②学校協議会、懇談会などで説明

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果

(国立教育政策研究所 HP から)

小学校

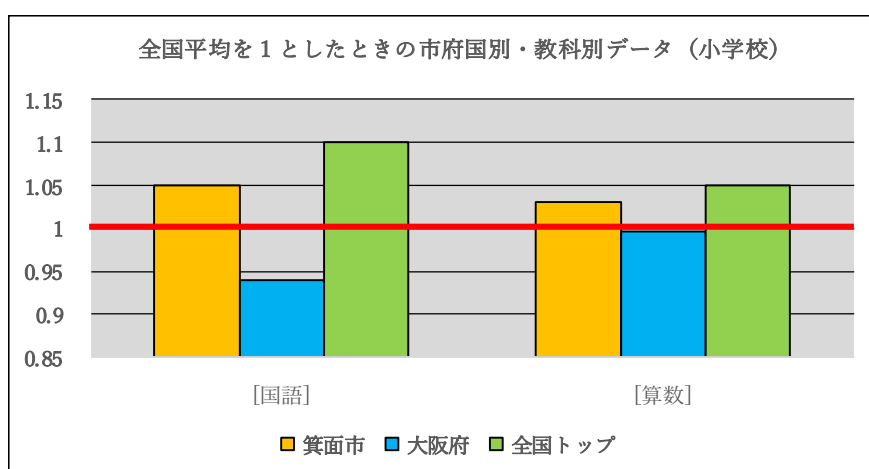
<平均正答率の状況>

	国 語	算 数
箕面市	68.0 (5)	73.0 (3)
大阪府	63 (35)	70 (14)
全 国	64.7	70.2
都道府県 全国トップ	71 (秋田・石川)	74 (石川・東京)

※ () は 47 都道府県の平均値を基に並べ直した
48 件中の順位

<全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	国 語	算 数
箕面市	1.05	1.03
大阪府	0.94	0.997
都道府県 全国トップ	1.10 (秋田・石川)	1.05 (石川・東京)
全国トップに対す る箕面市の割合	0.96	0.99



中学校

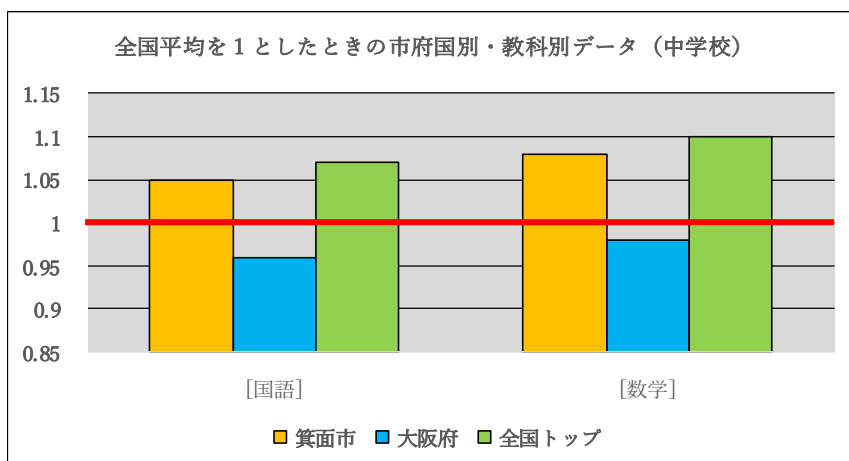
<平均正答率の状況>

	国 語	数 学
箕面市	68.0 (2)	62.0 (2)
大阪府	62 (42)	56 (26)
全 国	64.6	57.2
都道府県 全国トップ	69 (石川)	63 (石川)

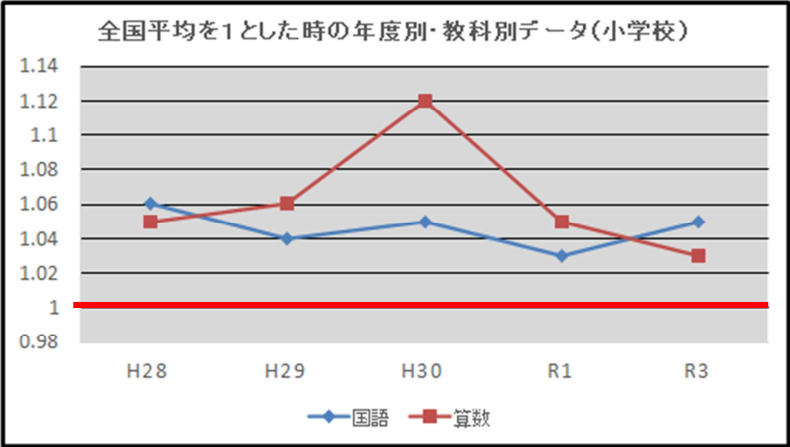
※ () は 47 都道府県の平均値を基に並べ直した
48 件中の順位

<全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

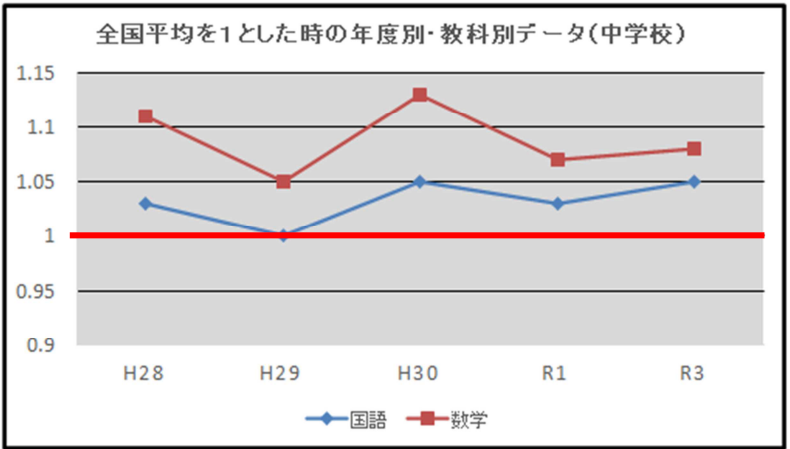
	国 語	数 学
箕面市	1.05	1.08
大阪府	0.96	0.98
都道府県 全国トップ	1.07 (石川)	1.10 (石川)
全国トップに対す る箕面市の 割合	0.99	0.98



小学校



中学校



注 2 : H27～H30の国語・算数・数学の数値は国語A・国語B、算数A・算数B、数学A・数学Bの数値の平均値

令和3年度 すくすくウォッチ(わくわく問題)

＜平均正答率の状況＞

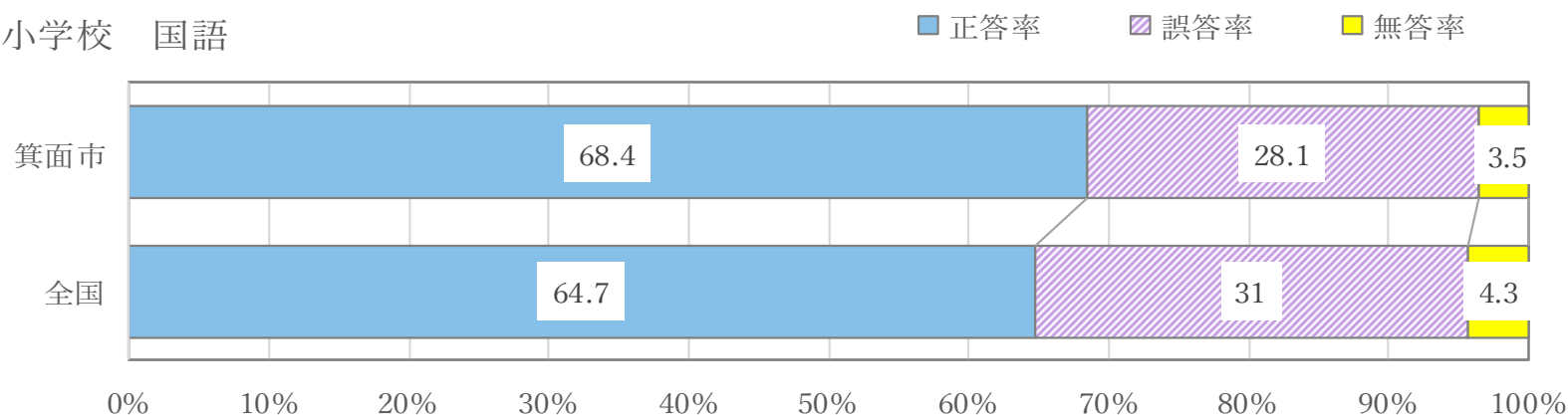
	5 年	6 年
箕面市	63.5	68.9
大阪府	55.1	65.1

＜大阪府平均を1としたときの箕面市のデータ＞

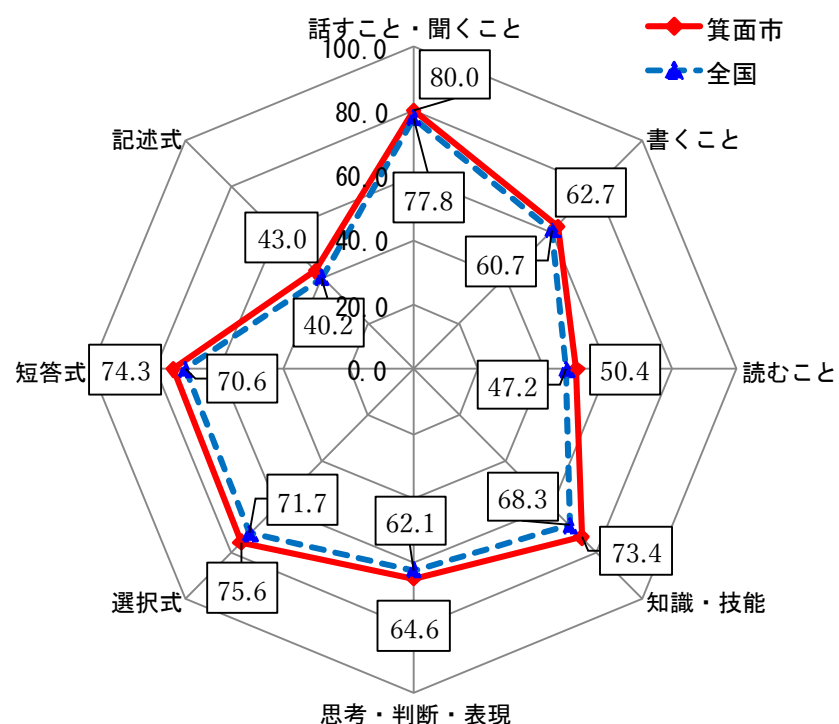
	5 年	6 年
箕面市	1.15	1.06

正答率

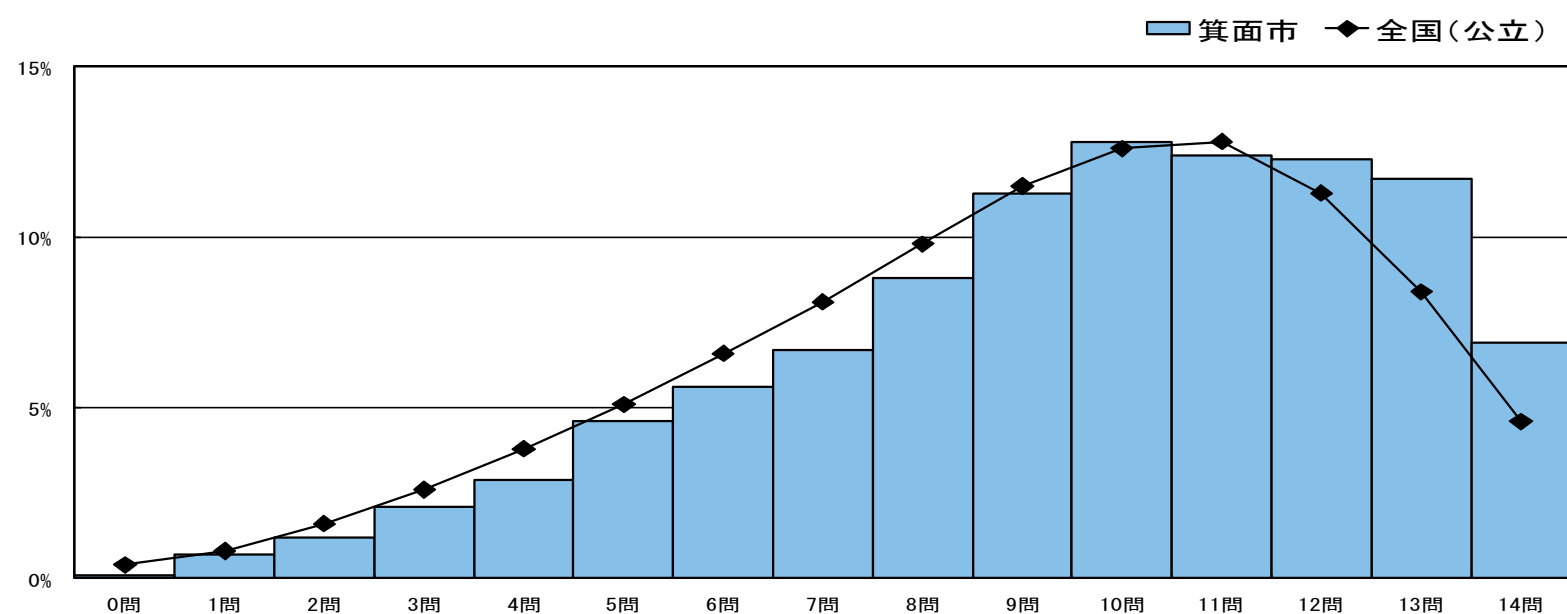
小学校 国語



領域・観点
問題形式別正答率



正答数分布



国語から見えてくること

国語では、全ての問題で全国平均正答率を上回る結果となり、本市の状況は概ね良好と言えます。

また、無答率は、全ての問題で全国平均正答率を下回る結果となり、問題に取り組もうとする児童が多い傾向にあると言えます。

○「知識及び技能」に関する問題では、全国平均正答率との差が5.1ポイントという結果で大きく上回りました。その中でも、「文の中における主語と述語との関係を捉える」問題では5.7ポイント、「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」問題では9.7ポイント全国平均正答率を上回る良い結果でした。

△「話すこと・聞くこと」では、「話し合ったことをふまえて、スピーチの内容を考える」問題で、平均正答率が全国を上回ったものの他の問題と比較して平均正答率が0.9ポイント低い結果となりました。

→課題があった問題(裏面に記載)

目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題



誤答で最も多かったのは、「西田さんの話から言葉や文を取り上げて書く」という条件を満たしていないものだったでござる。

この場面では、「そうじ担当の人などがかたづければよい」と考える人を説得するために、反対する意見を詳しく書きたいんだね。そのために西田さんの話を用いながら、反対する理由を明確にして書くという意図があるんだ。当事者の意見があったほうが考えに説得力が増すね。つまり正答例の一文目のようなところが必要だね。



（正答例）
しかし、遊具置き場のそうじは、片付けで時間が足りなくなり、はきそうじやふきそうじに手が回らないことがあるそうです。たんだの人だけに任せると大変なので、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。（百字）

（条件）
○「そうじ担当の人などがかたづけられようい」という考えに対する反対意見と、その理由を書くこと。
○遊具置き場のそうじ担当の西田さんの話から言葉や文を取り上げて書くこと。
○六十文字以上、百字以内で書くこと。

この問題は、気持ちよく学校生活を送ることができるよう、「一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切」という自分の考えを学級の友だちに主張する文章を書くという場面を想定しています。
問題としては、「そうじ担当の人などがかたづけられようい」と考える人を説得するために、【西田さんの話】を用いて【文章の下書き】の「しかし、わたしは、使った人がかたづける」べきだと思います。」を以下の条件にそって、くわしく書き直す、というものです。

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけています。でも、そのために時間が足りなくなつてしまい、掃き掃除や拭き掃除まで手が回らなくなることもあります。そんなときは、きれいに掃除ができなくて困ります。

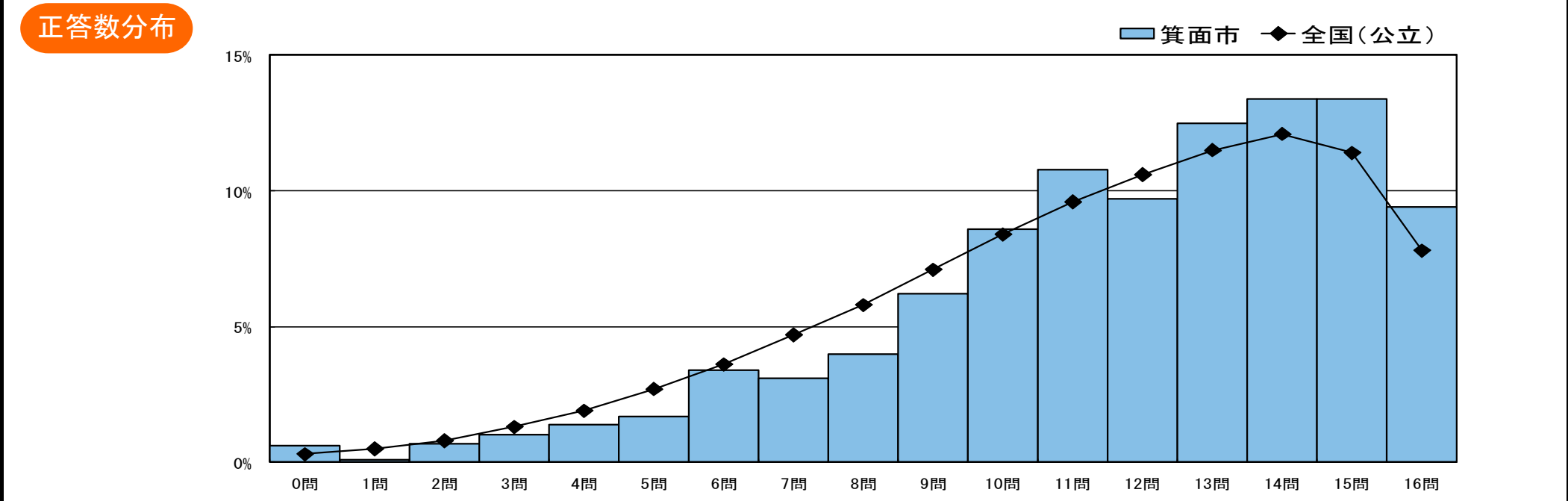
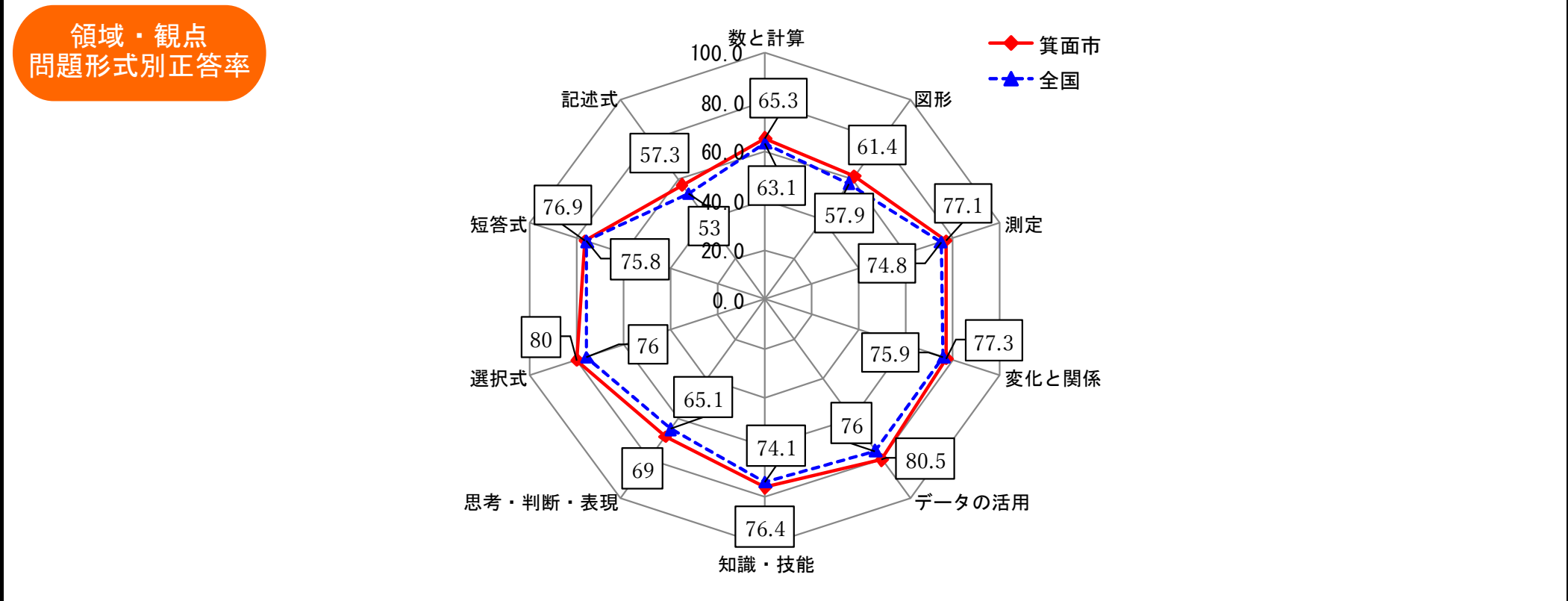
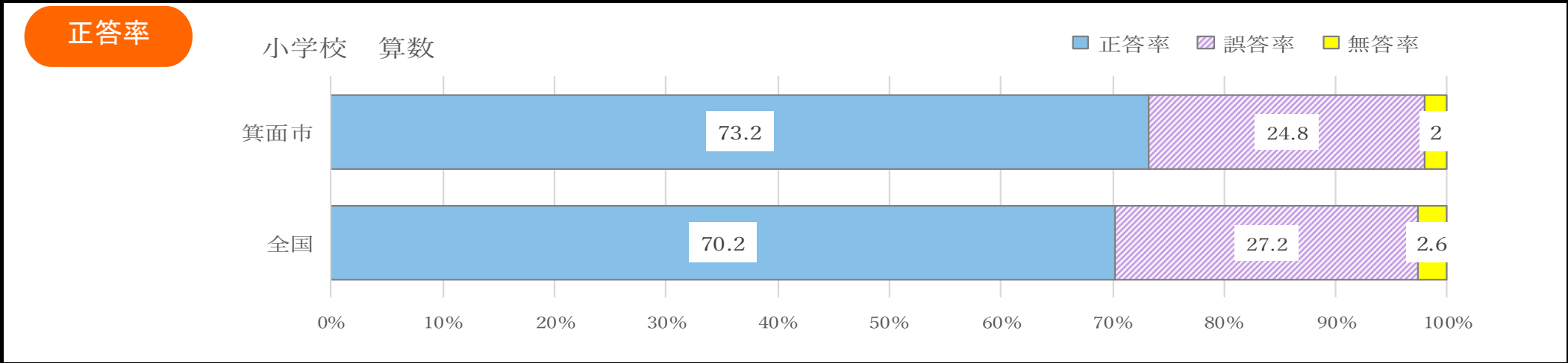


西田さん

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしよう

国語の時間では、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり、適切に表現する力を高めたりしています。書く活動では、書くことを見付けたり、相手や目的、意図に応じて書くことを選び、必要な事柄を整理し、伝えたいことを明確にするということを学習します。高学年になると、書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要のある場合や、簡単に書いたほうが効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫するという学習をします。上の問題では、「そうじ担当の人などがかたづけられようい」という考えに反対する理由は、詳しく書いたほうが効果的であると判断した結果、詳しく書き直すという場面になっています。

自分の考えを効果的に伝えるにはどの部分を詳しく伝えるのか、簡単に伝えてもいいのはどの部分なのか、という文章を繰り返し見直していくことを通じて、適切に表現する力を高めることにつながります。日常生活でも、効果的に伝えるためにはどの部分を詳しく伝えるのか、書いて整理するのもいいですね



算数の問題から見えてくること

すべての領域、観点、問題形式において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

○「データの活用」の領域に関しては、全国の平均正答率を大きく上回りました。(全国比+4.5 ポイント)

- ・データを二次元の表に分類整理する問題(全国比+7.8 ポイント)

○「思考・判断・表現」の観点に関しては、全国の平均正答率を大きく上回りました。(全国比+3.9 ポイント)

- ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題(全国比+7.3 ポイント)

△「変化と関係」の領域では、全国の平均正答率は上回ったものの(全国比+1.4 ポイント)、領域の中では最も全国との差が小さい結果となりました。

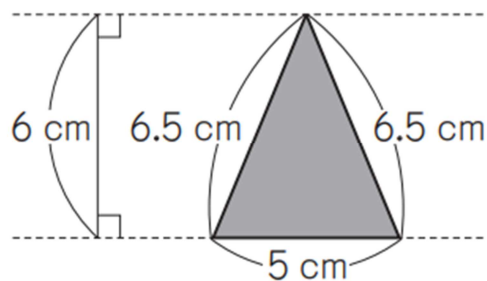
- ・速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題(全国比-1.6 ポイント)

△「図形」の領域に関しては、全国の平均正答率を上回ったものの(全国比+3.5 ポイント)、市の平均正答率は、領域の中では最も低い結果となりました。

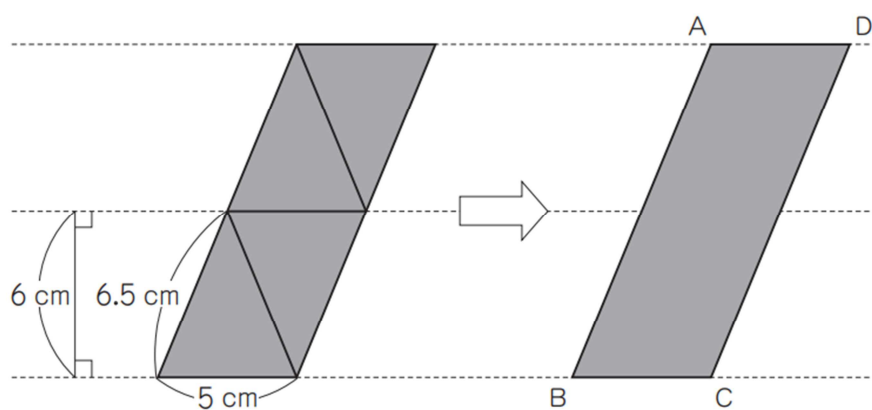
→課題があった問題(裏面に記載)

算数 全16問のうち、最も正答率が低く、無答率が高かった問題

2 (3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形A B C Dをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形A B C Dの面積を求めます。

辺B Cを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形A B C Dの高さをどのように求めたのかがわかるように書きましょう。

(正答の条件)

次の①、②の全てを書き、平行四辺形A B C Dの面積を60と書いている。

①平行四辺形A B C Dの高さを求める式や言葉

②平行四辺形の面積を求める公式を用いた、平行四辺形A B C Dの面積を求める式や言葉

(正答例)

【求め方】

- ・ 辺B Cを底辺としたとき、高さは、 $6 \times 2 = 12$ で、12cmです。
- ・ 平行四辺形A B C Dの面積は、 $5 \times 12 = 60$ で、60 cm^2 です。

【平行四辺形A B C Dの面積】

- ・ 60 (cm^2)

この問題では、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力が求められます。平行四辺形の面積を求める公式を用いるために必要な情報が直接は示されていないため、二等辺三角形の辺や高さなどに着目し、必要な情報を見い出さなければなりません。また、その際、求め方を記述する上で、上の正答の条件に示している二つの事柄（①高さを求める式や言葉・②公式を用いて面積を求める式や言葉）を筋道立てて書く必要があります。



「平行四辺形の面積は求められるけれど、高さを求める式や言葉が書けない」と「高さを6.5 cm二つ分と捉えている」が箕面市の誤答の4割近くを占めていたよ。

「平行四辺形の高さがどの部分にあたるか」という問題は、以前から全国学力テストで何度も取り上げられているでござる。

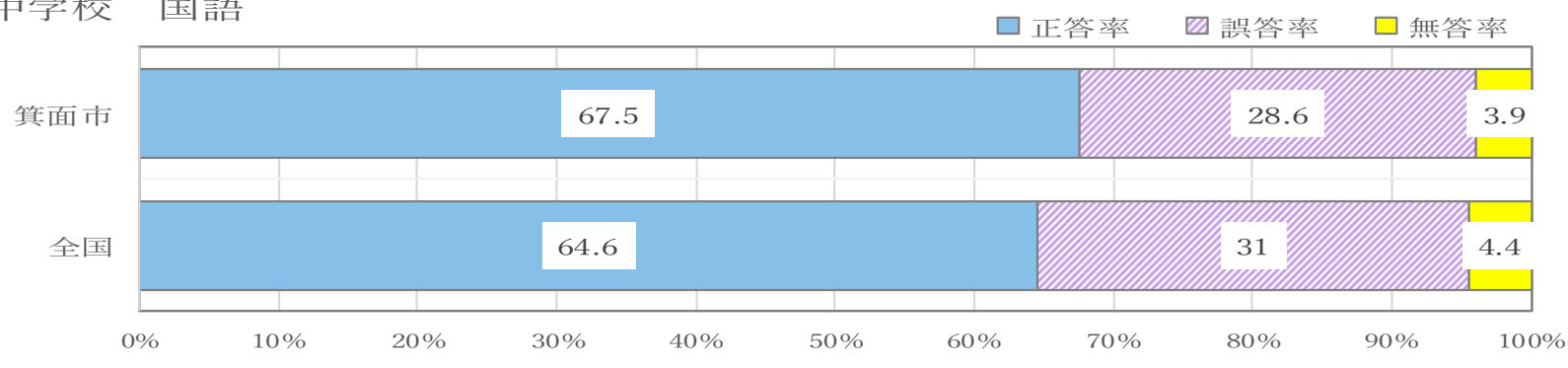
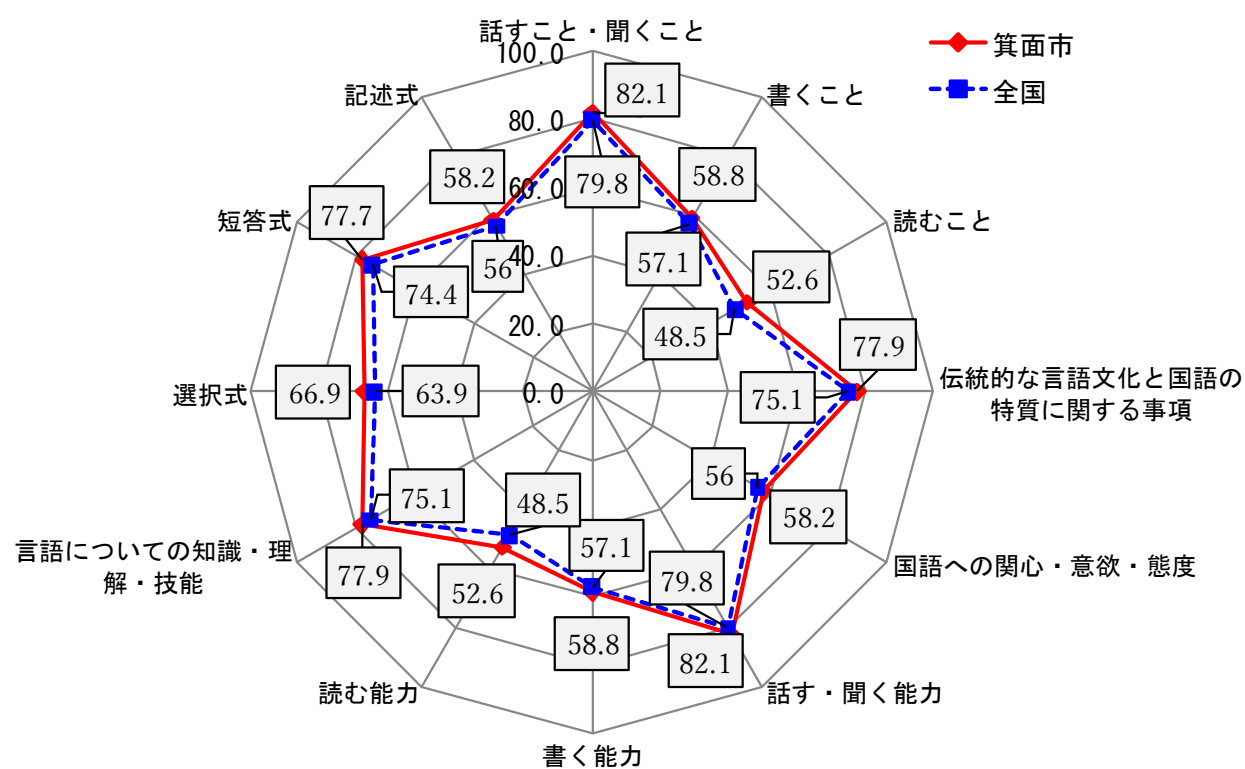


答えを導くために必要な情報を見い出し、その過程を説明できるようにしよう！

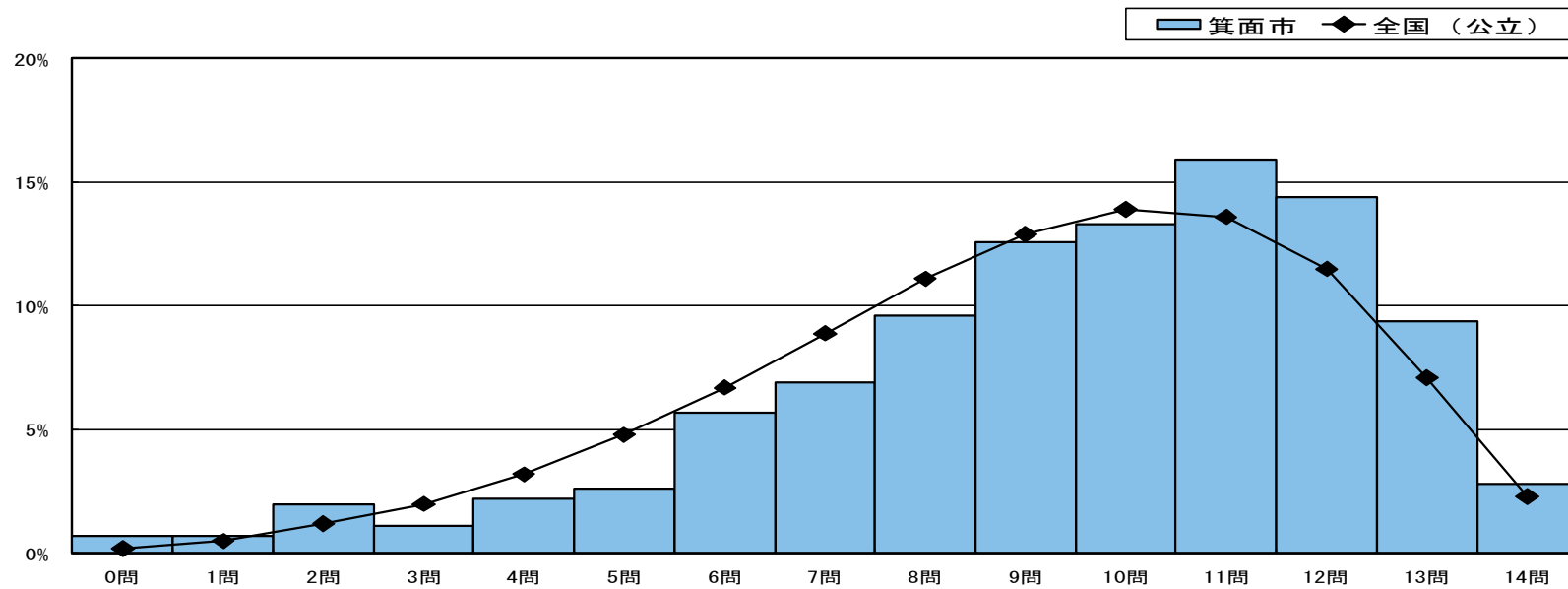
公式を暗記して答えを出すのみでは、学習指導要領で示されている「生きて働く知識・技能」の習得は望めません。課題に直面した時に、既習の知識や習得した技能をどう使うか、どんな場面で使うか、知識と技能を相互にどう関連づけて使うか等、試行錯誤していく中で「生きて働く知識・技能」は身に付いていきます。公式をそのまま当てはめる問題だけでなく、面積を求めるために必要な情報が直接示されていないような問題や、情報が必要以上に示されている問題に取り組み、答えを導くために必要な情報を見い出したり、答えを導くまでの過程を筋道立てて書いたりする学習が必要です。

正答率

中学校 国語

領域・観点
問題形式別正答率

正答数分布



国語から見えてくること

国語では、ほとんどの問題において全国の平均正答率を上回っています。本市の状況は概ね良好です。

○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する問題のうち、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」問題では、全国の平均正答率との差が9ポイントという結果で大きく上回りました。

○どの項目もバランス良く結果が出ており、その中でも、「読むこと」について全国の平均正答率を4ポイント上回り、結果が良好でした。特に「文脈の中における語句の意味を理解する」問題において、全国の平均正答率との差が7ポイントという結果で大きく上回りました。

△全国の平均正答率を下回った問題は1問だけあり、「伸ばして」の読みを答える問題でした。全国の平均正答率を0.8ポイント下回りました。

△「読むこと」における「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」という記述式の問題では、全国よりも高い結果ではあるものの、正答率が最も低く、また、無答率が最も高く、課題が見られました。

→課題があった問題(裏面に記載)

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題

この問題は、夏目漱石の「吾輩は猫である」の一部と本のカバーに書かれている紹介を取り上げています。この作品は、教師である主人に拾われた猫が、人間模様や人間社会を猫の目を通して風刺的に語っている物語であり、一見難読な文章も用いられています。文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開や登場人物の描写に注意して読んで内容を理解したりするとともに、本のカバーに書かれている紹介を参考にしながら、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつことが求められています。

【紹介】

中学教師の苦沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽そのもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。

【紹介】に「様々に評価する」とありますが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。

条件1

【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書く。

条件2

条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

（正答例）

「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。

不正解だった人のうち半分以上が「吾輩が黒を評価している表現を引用して書く」ということができていなかったでござる。



「吾輩」が「黒」をどう評価しているか、という見方や考え方が表れている部分に注目して読むことがポイントだね。

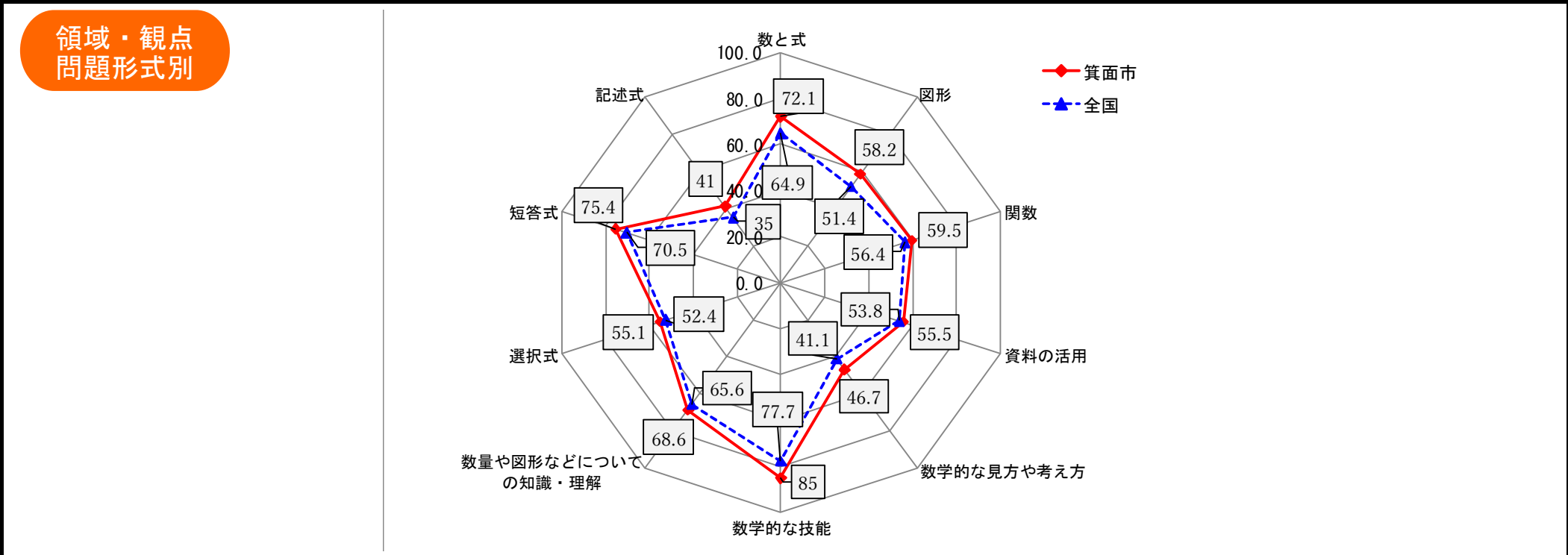
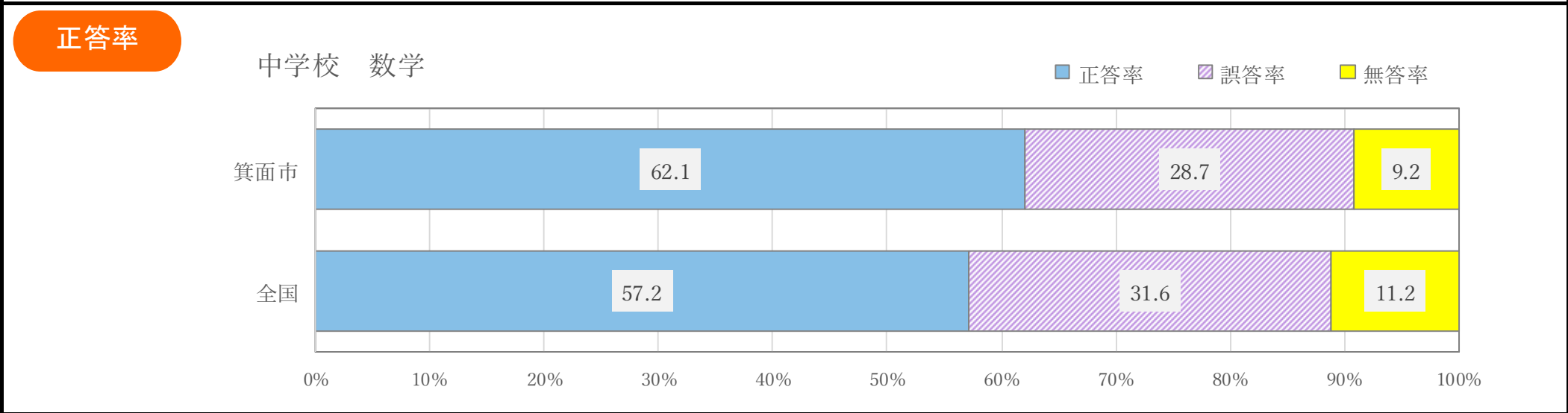


文章から「ものの見方や考え方」を捉えよう

この問題では、夏目漱石の「吾輩は猫である」の場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、「ものの見方や考え方」を捉えて自分の考えをもつことが求められています。「腕力と勇気とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」や「元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあって」といった表現も引用できます。「黒」を評価している部分がどこになるのか、「吾輩」の立場や目線に立って読み解いてみましょう。

国語の時間では、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする力を身につけるよう指導しています。また、言語活動を通して、「ものの見方や考え方」を広げたり、生活に役立てたり、自己を向上させたりしようとする態度を育んでいます。

様々なジャンルの本を読むことによって、新たな「ものの見方や考え方」を発見したり、多様な視点から物事について考えられるようになってたりします。例えば、図書館へ行って「おすすめの本」を読んでみたり、読んだ本について家族や友だちと感想を語り合ったりすることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができます。



数学 全16問のうち、正答率が低く、無答率が最も高かった問題

8 桃花さんは、5月にA市のキャンプ場に行くことになりました。キャンプの準備をするために、キャンプ場の過ごしやすさについて、気候に着目し、A市の昨年5月の最高気温、最低気温、日照時間、最大瞬間風速、降水量をインターネットで調べました。さらに、調べた最高気温から最低気温をひいて気温差を求め、下の表のようにまとめました。

調べたこと

日付	最高気温(℃)	最低気温(℃)	気温差(℃)	日照時間(時間)	最大瞬間風速(m/秒)	降水量(mm)
1日	20.9	6.9	14.0	5.8	7.4	0.0
2日	25.9	9.1	16.8	12.0	7.3	0.0
3日	27.3	12.8	14.5	10.3	8.2	0.0
4日	20.3	11.8	8.5	2.5	9.5	0.0
5日	23.5	9.4	14.1	9.9	11.9	0.5
6日	13.2	5.5	7.7	0.1	8.7	2.0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
31日	20.9	9.2	11.7	2.2	9.1	0.0

○日照時間とは、1日のうちで、日光によってものの影ができた時間の合計のこと。

気温差の度数分布表

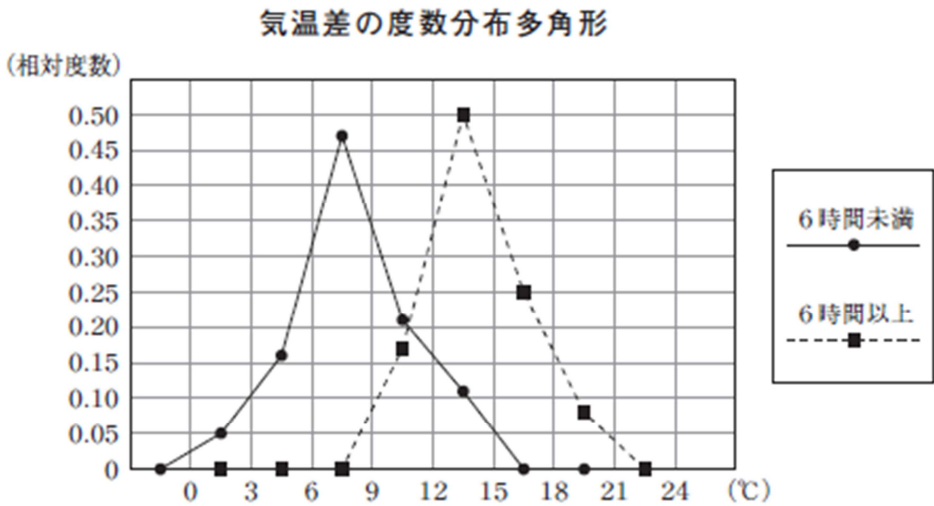
気温差(℃)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ～ 3	1	0.05	0	0.00
3 ～ 6	3	0.16	0	0.00
6 ～ 9	9	0.47	0	0.00
9 ～ 12	4	0.21	2	0.17
12 ～ 15	2	0.11	6	0.50
15 ～ 18	0	0.00	3	0.25
18 ～ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00

(1)では、ヒストグラムの階級の度数を読み取ることができるか、(2)では、相対度数を用いる意味を聞かれていたでござる。習った知識が理解できているかが大事でござる。



この問題の正答率は12.5%だったよ！ただ、この問題は、無答率が26.0%あり(全国32.2%)、記述することに難しさを感じている人が多いね。普段から言葉で表現することを練習する必要があるね！

(3) 桃花さんは、左の気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

(正答の条件)

次の(a)、(b)について記述しているもの。

(a) 6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にあること。

(b) 日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあること。

(正答例)

2つの度数分布多角形が同じような形で、6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にある。したがって、日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある。

この問題では、データの傾向を読み取り、事象をデータに基づいて考え、数学的な表現を用いて説明すること、そのような結論になった根拠を数学的表現を用いて説明する力が求められます。特に(3)では、度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と判断した理由を数学的な表現を用いて説明する必要があります。

正答の条件や正答例にあるように、度数分布多角形が同じ形をしており、日照時間が6時間以上の方が右側にあるというグラフが表す意味を正確に捉え、それらを記述で説明する必要があります。

必要な情報を得て、説明できる力が求められています！

学習指導要領では、目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いるなどして表やグラフに整理し、代表値や資料に着目してその資料の傾向を読み取る力が求められています。また、グラフなどの表している意味を理解し、考察し物事を判断する力や、その判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力も必要です。そのためにも、日々の授業の中で、得た情報をそのまま受け取るのではなく、たくさん溢れている情報から自分に必要な情報を見つけ、活用する力を育みます。

令和3年度箕面市児童生徒「学習状況調査」結果から

日々の積み重ねを力に、羽ばたく子どもたち

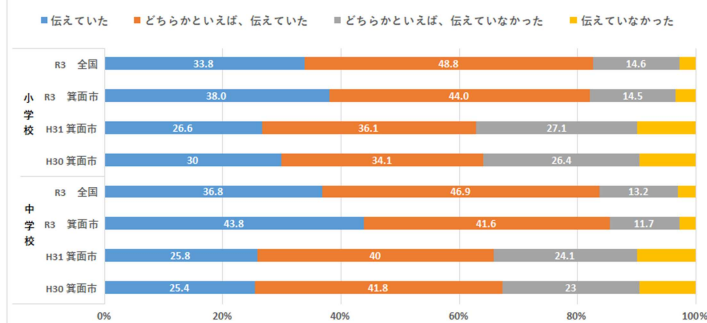
学習状況調査は、アンケート形式で児童生徒からの回答を求めるものです。学力状況調査の結果と関連がある学習状況の質問項目については、概ね良好な結果でした。肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国と比べて低い項目がいくつかありますが、多くの質問項目について、肯定的な回答の割合が高くなっています。日々の積み重ねを元に力をつけている子どもたちの様子が伝わってきました。以下、今回の調査結果から見える箕面の子どもの様子について、いくつかの視点に絞って考察します。



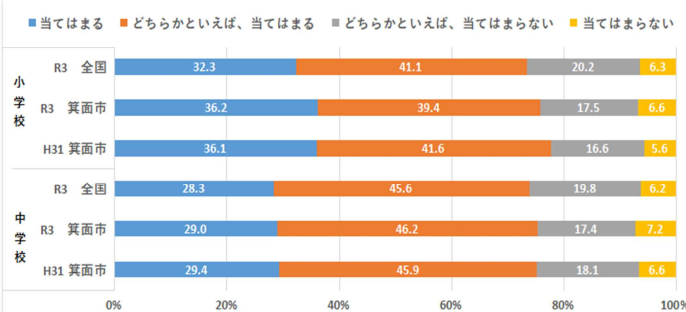
学校生活の様子

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

5年生までに（中学1、2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか



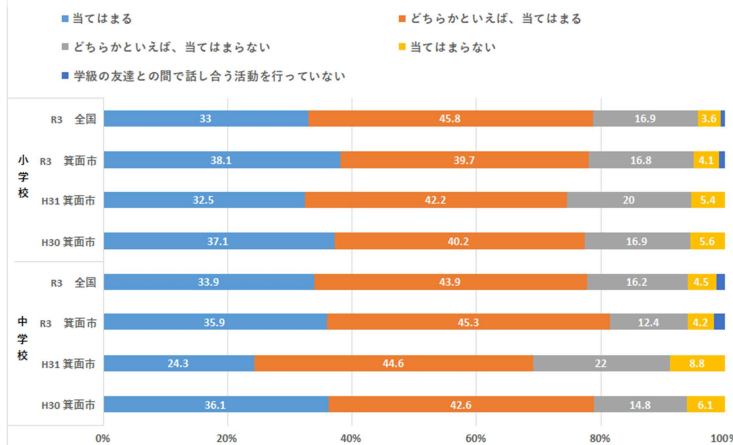
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



平成30年度、平成31年度、令和3年度の全国の数値より、今年度の箕面市の結果は高い数値が出ています。特に中学校は大幅に数値が伸びています。自分の考えを発表すること、発表するだけでなく、どうすればうまく伝わるかを考えることにこだわった授業づくりをした結果と考えられます。

発表する、伝えるだけでなく、話し合った結果を生かしているかという質問に対しても、全国より高い数値であり、2年前と同等の数値を保つことができています。2年前には想像できなかったコロナ禍の状況ではありますが、タブレットを使用する等、話し合う機会を確保していることがわかります。

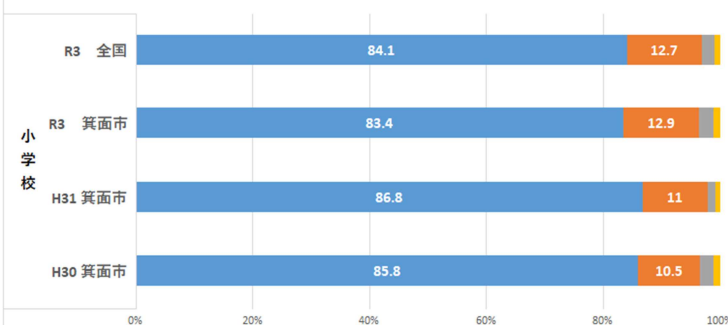
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



工夫して発表し(左上のグラフ)、学級会等で話し合った結果(右上のグラフ)、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますかという質問です(左のグラフ)。平成30年度、平成31年度、令和3年度の全国の数値より、今年度の箕面市の結果は高い数値が出ています。今回の調査から「学級の友達との間で話し合う活動を行っていない」という選択肢が新設され、「話し合う活動を行っていない」との回答もありました。今後も、授業の中で、発表したり話し合ったりすることは自分の学びとなる経験を積み重ねられるよう、授業展開の工夫に努めています。

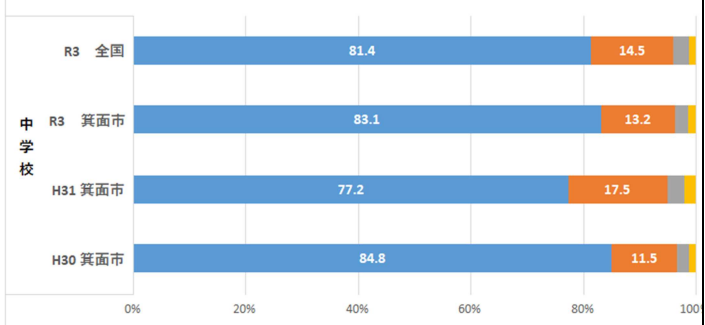
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

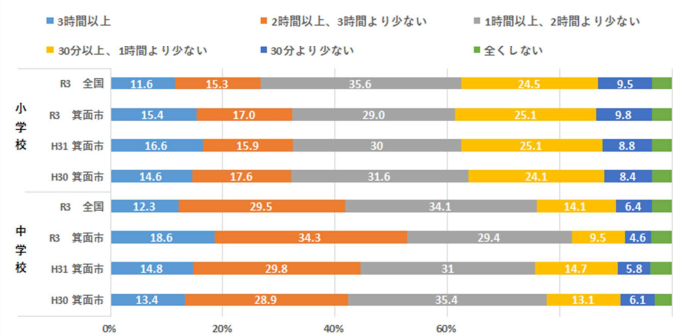
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



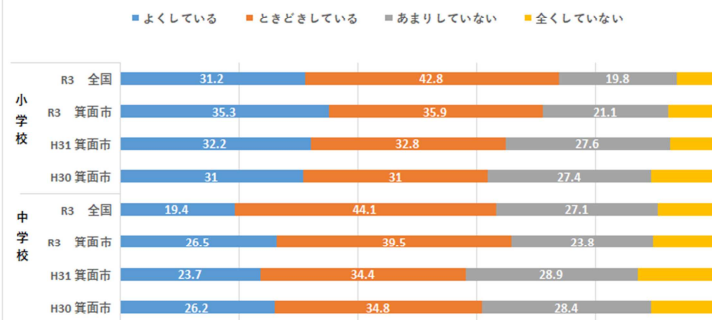
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、中学校は全国と比べると高い数値となり、小学校は全国と過去2回分どちらと比較しても低い数値となりました。また、「当てはまらない」と回答している児童生徒もいます。「いじめとは何なのか?」「いじめはなぜいけないことなのか?」についての授業を実施し、箕面市全体のいじめに対する意識を高めていきたいと考えています。

家庭での学習

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます。）



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含みます。）



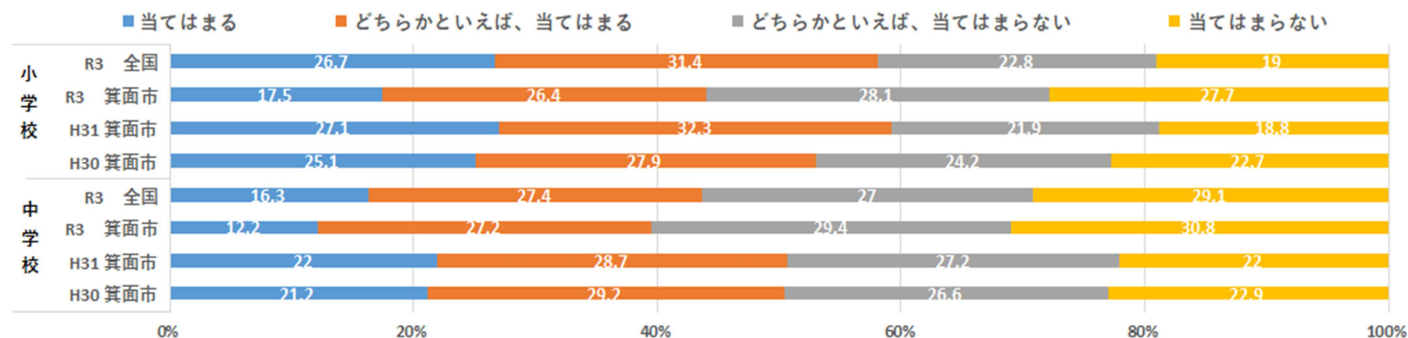
※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問で「2時間以上」と答えた子どもの割合は全国平均より小学校、中学校ともに高い結果となりました。また、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問で、「よくしている」と答えた児童生徒の割合も、全国平均より小学校、中学校ともに高い結果となりました。学校で学んだことを確実に身につけ、学力を伸ばすためには、家庭学習が大切です。学校からは、読み・書き・計算などの反復学習の宿題がよく出されます。反復学習で学習内容の定着をはかりながら、学校での勉強を活かした発展的な学習を、自分で目標を決め、計画的に取り組むことを大切にしていきます。主体的に学習する力が積み重なり、深い学びに繋がっていくことが期待されます。



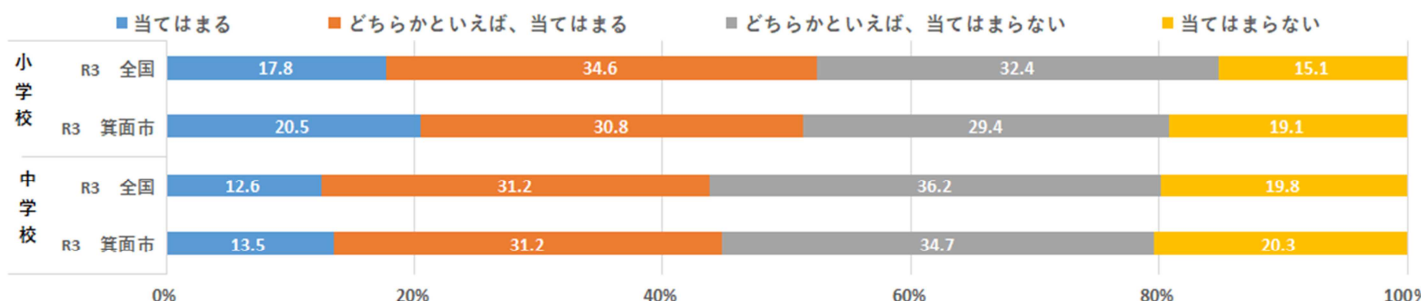
地域や社会との関わり

今住んでいる地域の行事に参加していますか



※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

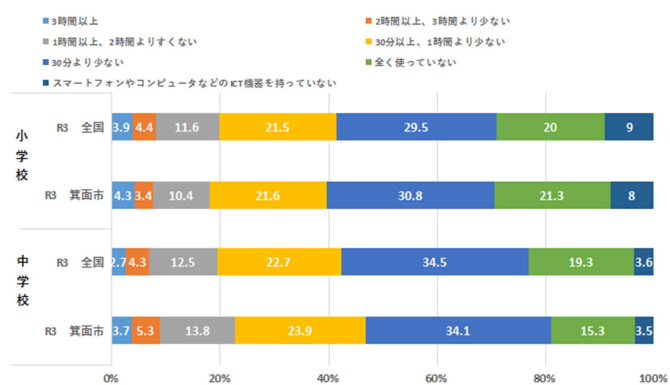


地域行事に参加する小・中学生の割合は全国平均値を下回っています。平成31年度まで小中学生とも年々増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による地域行事の延期・休止等の影響で、令和3年度においては数値が落ち込む結果となっています。

「地域や社会をよくしていきたい」という考えをもつ児童生徒は、全国平均と比較しても上回っていると言えます。日頃から地域と関わりながら学習を進める活動を、各小・中学校で積極的に行っている結果だと推察されます。箕面市には地元地域に愛着を持っている児童生徒がいることや、日頃より社会に対して問題意識を持ち、今の社会をよりよくしたいと思う児童生徒が育っていることがわかります。

ICT への関心について

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

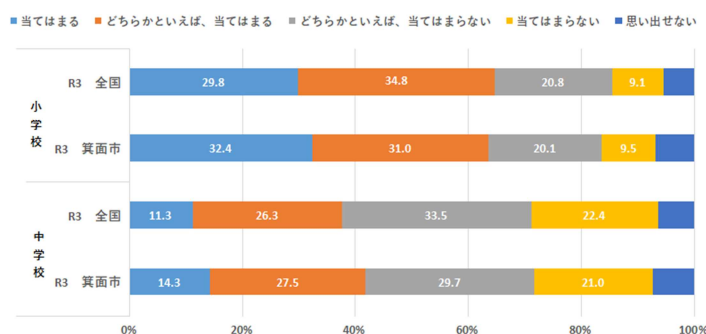


「1日あたりICT機器を勉強のために使っている時間」について「3時間以上」と答えた児童生徒の割合は、全国平均を上回っています。中学校では、「30分以上使用している」と答えた生徒の割合も全国平均を上回っています。

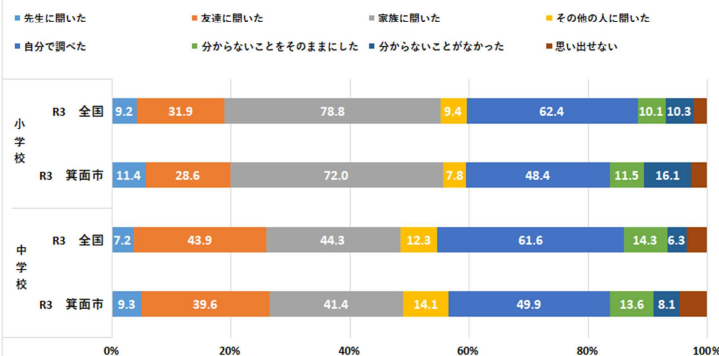
令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言下でタブレットを活用してのオンライン授業が市内一斉に行われました。それにより児童生徒がICT機器を学習に活用する機会が増え、定着してきたのではないかと思います。今後もICT機器を学習の様々な場面で効果的に活用できるよう取り組みを進めていきます。

自分自身について

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか



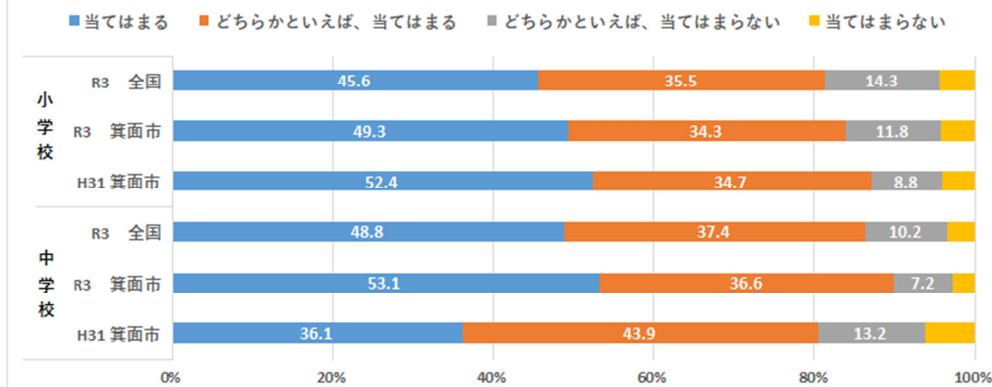
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題でわからないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）



令和2年3月～5月の新型コロナウイルス感染症拡大予防による臨時休校期間中の家庭学習についての質問です。「計画的な学習を続けられた」と回答している児童生徒は全国と比べて高い数値となり、学校からの課題で「わからないことがなかった」と回答している児童生徒が全国と比べて高い数値となっております。臨時休校期間中であっても、子どもたちの学びを止めないよう、授業動画配信等を実施し、市全体でできることに取り組んだ結果であると考えています。

<道徳>

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



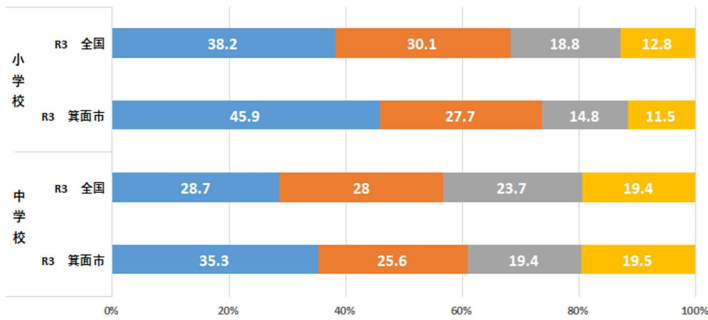
※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、全国平均より小学校、中学校ともに高い結果となりました。道徳が教科となり、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、他者と対話したり協働したりしながら「物事を多面的・多角的に考える」ことが求められています。他者の多様な感じ方や考え方に触れることで、身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにすることを強く意識していきます。

<英語>

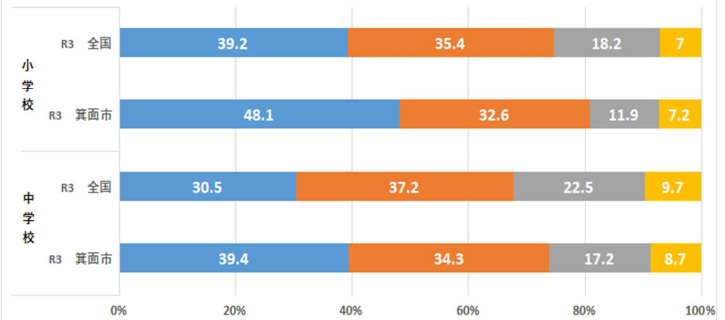
英語の勉強は好きですか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



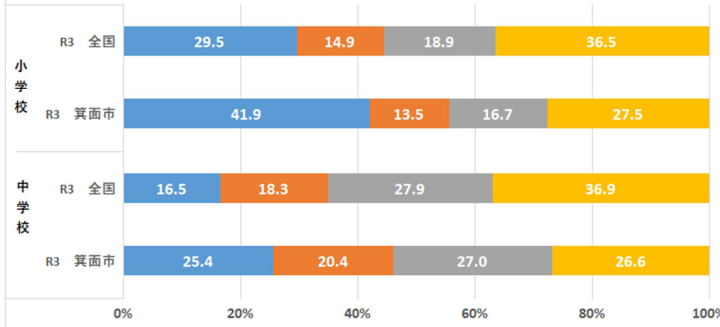
5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



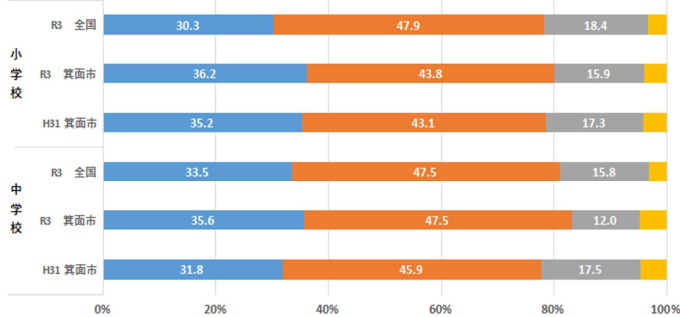
箕面の子どもたちは英語を話すことに対して全国平均に比べても意欲が高く、日常の場面でも英語を使ってコミュニケーションをとることを意識していることがわかります。主体的に学ぶことができ、既習したことを活用して、自分の考えなどを話したり、書いたりすることのできる「技能」を身につけ、積極的に英語と関わることができています。

小・中学校では、積極的に英語学習に取り組み、英語科の授業においては、ALT（外国人英語指導助手）が居ることが当たり前という環境を作り、「英語に慣れる」「自然に話す・聞く」機会をより多く持つよう取り組んできた成果と言えます。また、箕面市には多くの外国の方が住んでいることもあり、普段から外国の方と触れ合う機会が多いことも要因の一つだと思われます。

<授業・学習への関心>

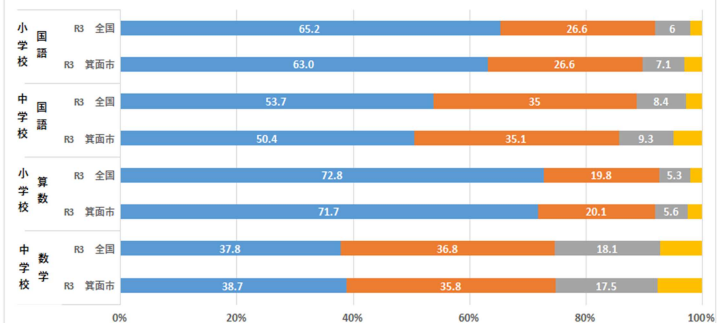
5年生までに（中学1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



国語、算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、調査を実施していません。

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」については、小中学校ともに令和3年度は肯定値の割合が平成31年度よりも伸び、全国を上回りました。意欲的に授業に臨んでいる姿勢が現れています。一方で「学習したことは、社会に出たときに役に立つ」については、小中学校の算数・数学、国語とも肯定値が全国よりやや低い傾向です。教科学習と実生活のつながりを実感することは「生きる力」の育成にもつながります。児童生徒の生活に関連付けた教材や授業展開の工夫を進めていきます。

調査全体のまとめ

新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校の教育活動も大きく変化しています。様々な感染症対策を講じながら、子どもたちの学びを止めない取り組みを進めていますが、コロナ禍を機に、「様々な変化に対応しながら、多様性を生かしつつ、未来を切り拓く力をどう高めていくか」が改めて考えるべき課題となりました。このような力を育むためには、子ども主体の学習を進めていく必要があります。「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」という質問で「あてはまる」という回答は、全国平均より小学校で5.3ポイント高く、中学校では7.9ポイント高い結果となりました。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問で「あてはまる」という回答は、全国平均より小学校で2.3ポイント高く、中学校では2.1ポイント高い結果となりました。今後も基礎的な知識や技能の習得に加え、他者と協働して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成をより大切にしていきます。

また、教育のデジタル化が進み、子どもたちの学びを保障するためにデジタル化が効果的な手段となることが期待されています。しかし、個人情報保護や過度なデジタル依存による弊害など、デジタル化の負の側面にも適切に配慮していかなければなりません。「携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、そもそも「家の人との約束がない」と答えた小学生が12.2%、中学生が14.7%いることもわかりました。子どもたちの生活が大きく変わる中で、学校、家庭、地域が連携して、子どもたちの育ちや学びを支えていくことがより一層求められています。

🔑 「いじめ」について 🔑

「いじめ」への対応と防止について、学校や教育委員会の責務を規定した「いじめ防止対策推進法」という法律があります。これは滋賀県大津市で起きたいじめ自殺事件を受けて、平成25年(2013年)6月に成立した法律です。

「いじめ」の中には、「一方的に」「継続的に」「大人数で一人に対してすること」というイメージがあるかもしれませんが、学校が行う児童生徒への聞き取りの際にも、「悪ふざけだった」、「ちょっかいのつもりだった」、「わざとしたわけではない」、「自分にも言い分がある」、「いじめたつもりはなかった」と答えが返ってくる場合があります。

この法律では、「いじめ」を、「当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義しています。つまり、「他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為」により「対象の児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」であれば、それは「いじめ」であるということがこの法律の制定により、明確となりました。

今、全国の学校は「いじめられた」と感じている児童生徒の立場に立って、早期発見・早期対応、積極的ないじめ認知に基づく対応を行っています。いじめの認知件数も、法律が施行される前年の平成24年度は小中学校で181,018件でしたが、令和元年度は591,069件と約3.3倍の件数となっています。箕面市の小中学校には学級担任をしていない生徒指導担当の教員がいます。いじめの早期発見・早期対応はもちろんのこと、いじめの未然防止に取り組むため、各校での生徒指導担当教員による校内研修や、教育委員会が全校の生徒指導担当の教員に対し、市内の状況を共有したり、未然防止・早期発見・早期対応するために日々心がけることを伝えたりする生徒指導担当者会を実施しています。

全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むために、いじめ防止等の対策に取り組むことが重要です。いじめを認識しながら放置することがないように、いじめがいじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解しなければなりません。

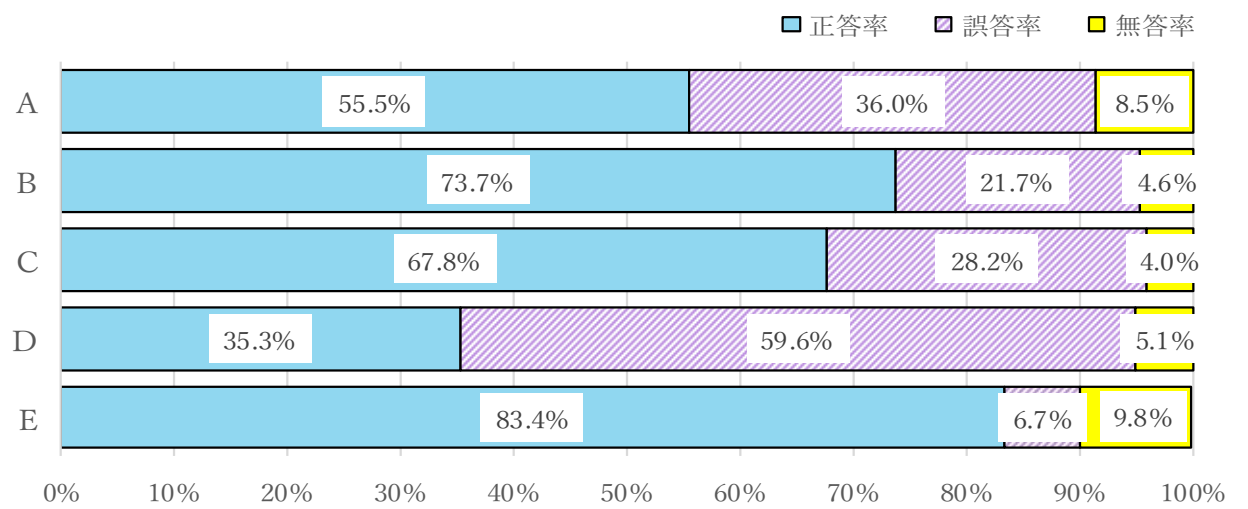
そのためには、全ての学校の教職員が児童生徒の気持ちに寄り添って真摯に取り組むとともに、社会全体で児童生徒を見守り、健やかな成長を促していくことが必要であり、箕面市、箕面市教育委員会、学校、地域、家庭など関係者が連携していじめ防止等の対策を進めてまいります。

■わくわく問題の5つの観点

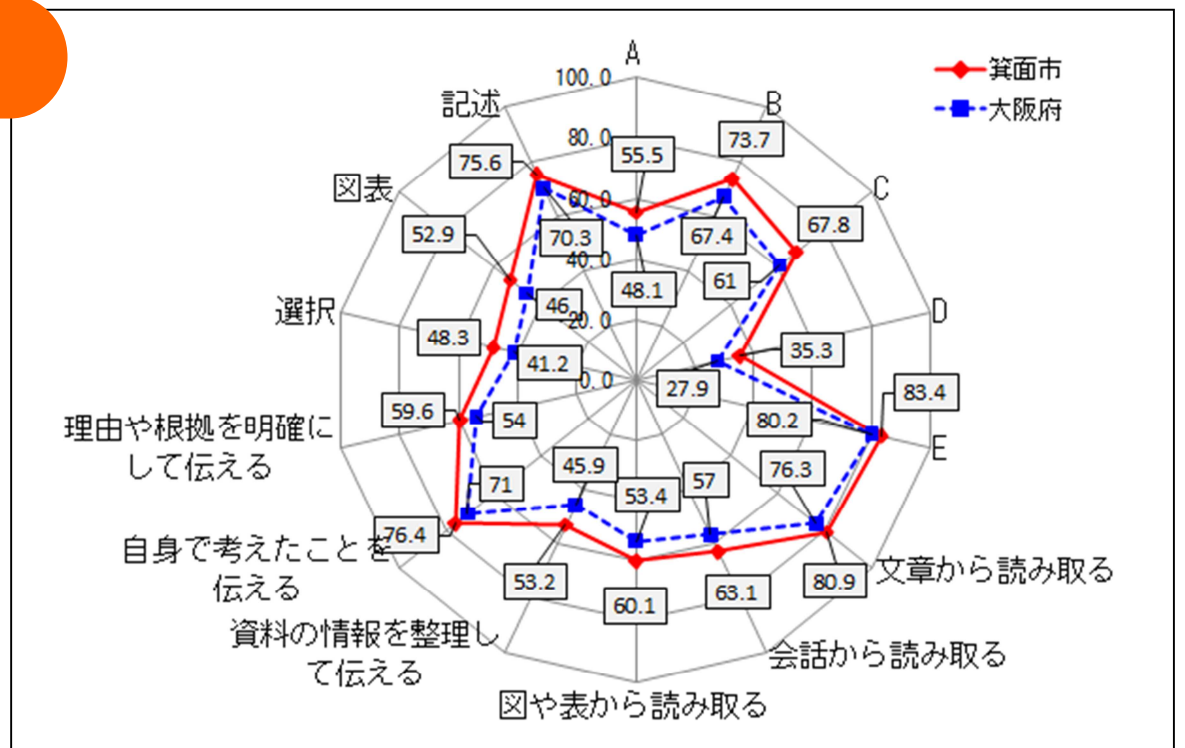
多様な他者と協働し、探究的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力

A	図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。
B	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。
C	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事がらを考える。
D	図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。（プログラミング的思考）
E	興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。

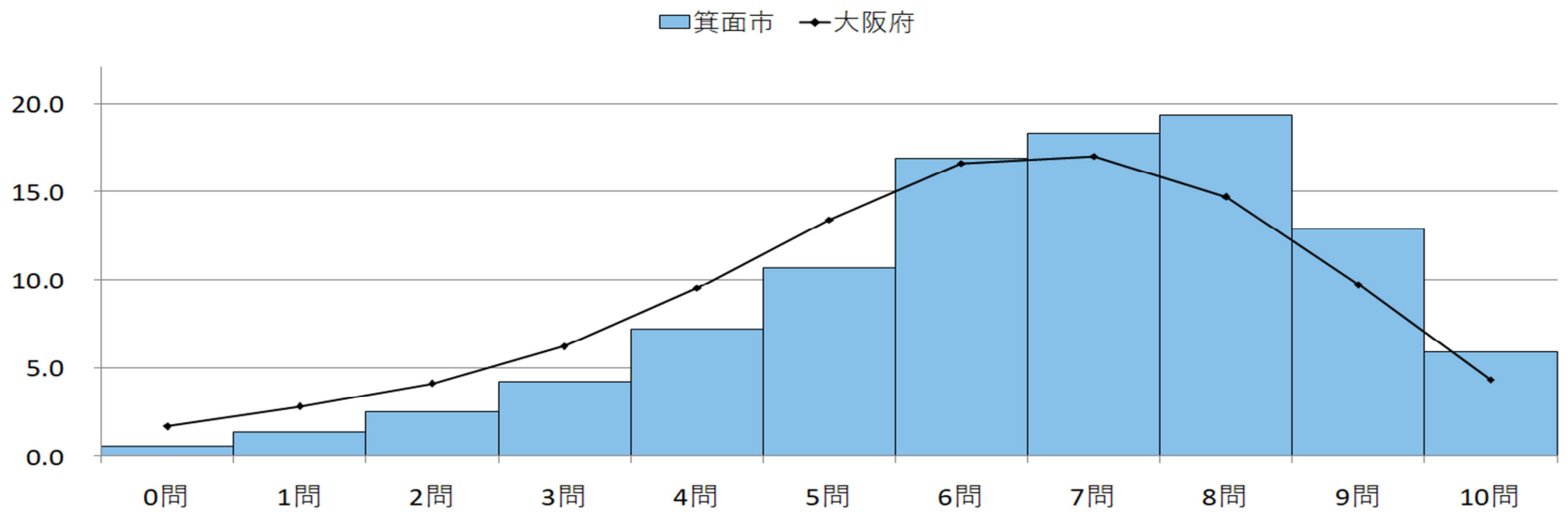
観点別正答率



分類・区分別正答率



正答数分布



わくわく問題から見てくること

わくわく問題とは、特定の教科の枠にとらわれない教科横断型問題です。

- ・文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題です。
- ・答えは記号を選んだり、文章を書いたり、図に色を塗ったり、絵を描いたりします。答えが1つでないものもあります。

わくわく問題（教科横断型）では、すべての領域、観点、問題形式で大阪府の平均正答率を上回っています。

○「興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える」問題の平均正答率が良好でした。

○「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える」問題は、大阪府の平均正答率より6.3ポイント上回りました。

○記述式の問題の平均正答率は、他の問題よりも良い結果でした。

△「資料の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える（プログラミング的思考）問題は大阪府の平均正答率より7.4ポイント高いが、平均正答率が低く課題が見られました。→課題があった問題（裏面に記載）

■課題が見られた問題

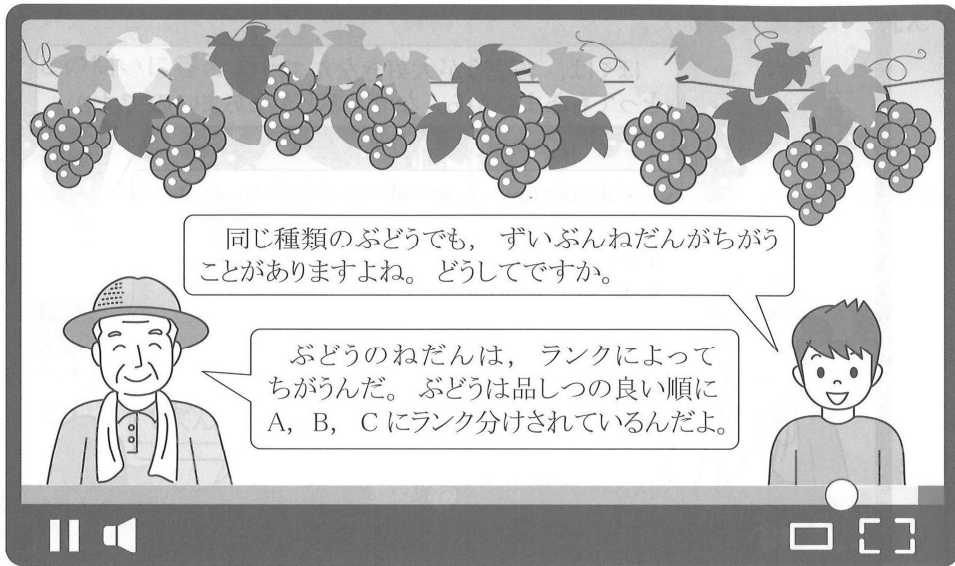
2 (3)

ブドウの値段について農家の人にインタビューする動画(資料4)もありました。資料4、資料5を読んで、あとの問いに答えましょう。

子どもが探究活動で良く使用するインターネットが題材でござる。動画の会話の内容を正しくとらえ、資料と動画を関連させて理解することが必要でござる。



動画(資料4)



けんたさんは、ぶどうのねだんを決めるランク分けについてきょう味を持ち、インターネットで調べたところ、資料5を見つけました。

資料5 【ぶどうのランク分け】

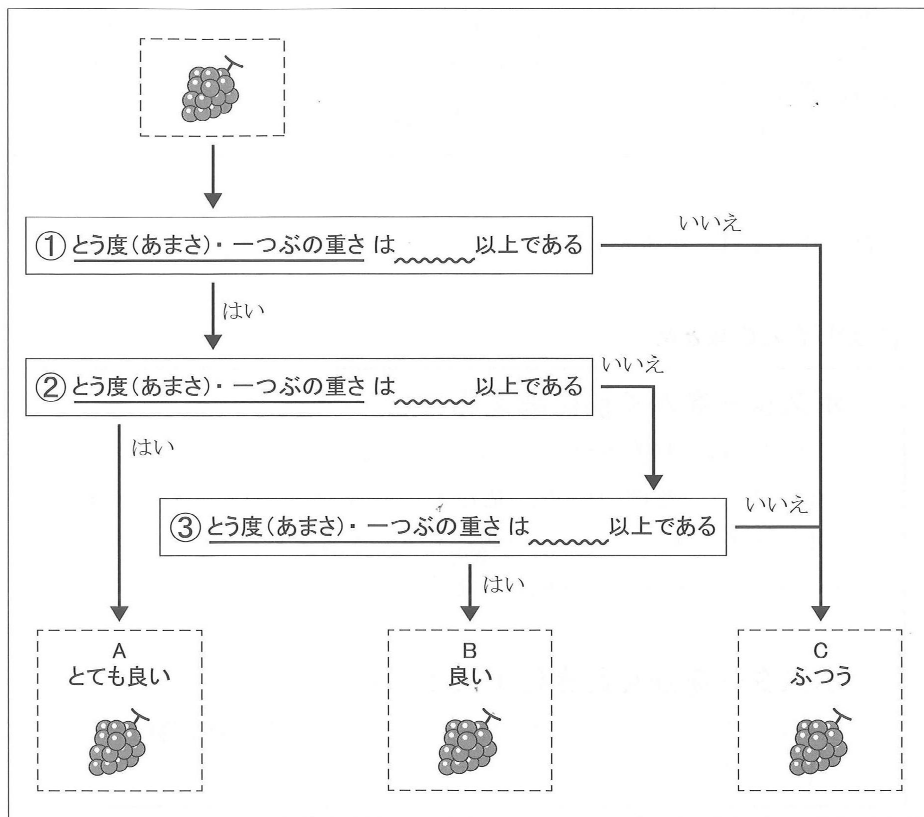
ランク	A とても良い	B 良い	C ふつう
とう度(あまさ)	17度以上	17度以上	16度以上
一つぶの重さ	14g以上	12g以上	12gより小さい

・ただし、とう度(あまさ)と一つぶの重さのランクがちがう場合は、低い方のランクになる。
(例) とう度(あまさ) 16度(Cランク) Cランク
一つぶの重さ 15g(Aランク)

※とう度(あまさ)とは食品にふくまれる「とう」の量を表した数で、数が大きいほどあまい。

けんたさんは、自由研究の発表に向けて、資料5をもとにぶどうのランク分けの流れを考え、次の図のように表しました。図の①のらんから③のらんの部には「とう度(あまさ)」か「一つぶの重さ」のどちらかを選んで○でかこみ、部には、あてはまる数と単位(度またはg)を書き入れて、図を完成させましょう。

図



プログラミング的思考力を問う問題だね。ゴールにたどり着くために、どの資料のどこを見て考えると良いのか、ゲーム感覚で考えると楽しいよ。

【解説と解答】

- ①まず、CとABの違いを見つけます。資料5から、**とう度(あまさ)**だと気づきます。そして、**17度以上**なければ、Cランクになることがわかります。欄外の(例)からもわかります。
- ②AとBCの違いを見つけます。資料5から**一つぶの重さ**だとわかり、**14g以上**がAランクになることがわかります。
- ③①で17度以上、②で14g以下と分けられたBとCの違いを見つけます。とう度(あまさ)はすべて17度以上なので、資料5から違いは**一つぶの重さ**とわかり、**12g以上**がBランクになることがわかります。

【誤答について】

誤答の多くは、最初の手順から正しく分類されていないものや、手順の一部(途中まで)は理解できているが、最終的に適切な結果につながっていないものがありました。その他、単位の転記の不備や、適切な主語を選択することができていない解答も見られました。

「なんでだろう」「おもしろい」を大切にしよう！

各教科で学んだことを生かして、自ら課題を見つけ、情報を集めて、友だちと知恵を出し合い、解決策を考えることを繰り返すことで、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を身につけることができます。日ごろから、子どもたちの疑問や興味・関心を大切にし、自ら学んでいこうとする意欲へとつなげる必要があります。

プログラミング的思考力とは、自分が意図する一連の活動を実現するために、「どのような動きの組み合わせが必要なのか」、「1つ1つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらよいのか」、「記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか」といったことを論理的に考えていく力のことです。例えば、「料理をする」「イベント等の計画を立てる」など、ゴールに向かってどのような順番で何をすればミッションをクリアできるかを考えさせることで、プログラミング的思考力が養われます。

令和3年度(2021年度)箕面市平均／全国平均 記録一覧

単位	握 力 kg	上体起こし 回	長座 体前屈 cm	反復 横跳び 回	20mシャトルラン 回	50m走 秒	全国平均以上	箕面／全国
							立ち幅跳び m	ボール投げ m
小1男子						11.8/11.4	112.5/114.7	7.6/8.2
小1女子						12.1/11.8	107.5/106.9	5.2/5.6
小2男子						10.9/10.5	126.6/125.5	10.6/11.5
小2女子						11.2/10.9	119.4/117.6	7.0/7.3
小3男子						10.1/10.0	137.3/136.8	13.3/15.6
小3女子						10.6/10.4	128.4/128.0	8.6/9.4
小4男子				37.6/39.2	39.0/45.6	9.7/9.6	145.1/144.5	16.4/18.9
小4女子				36.1/37.9	29.4/37.0	10.0/9.9	137.5/137.8	10.0/11.6
小5男子	16.6/16.4	18.8/20.7	33.7/33.4	41.0/43.6	46.2/54.8	9.2/9.2	154.5/155.3	19.9/22.9
小5女子	16.3/15.9	17.6/19.1	37.6/37.4	39.7/41.5	37.2/44.1	9.5/9.5	148.0/147.4	12.3/13.6
小6男子	19.7/19.4	21.4/22.6	36.3/35.7	45.1/46.2	55.3/63.4	8.9/8.8	164.1/164.0	23.4/26.6
小6女子	19.5/19.2	19.9/20.8	41.2/41.0	42.7/44.1	42.5/51.5	9.1/9.1	153.7/156.0	14.6/16.3
中1男子	22.7/23.9	23.0/24.4	37.2/40.2	47.3/50.1	62.7/71.5	8.5/8.4	177.4/182.7	16.9/18.4
中1女子	21.0/21.9	20.9/21.9	42.0/43.8	43.9/46.8	45.0/56.3	9.2/8.9	156.1/169.2	10.4/12.3
中2男子	27.3/30.3	26.2/27.8	42.5/45.4	50.8/53.8	80.4/88.2	8.0/7.8	194.1/201.6	19.5/21.3
中2女子	22.9/24.2	22.8/24.4	45.4/46.7	45.7/48.9	50.3/62.3	8.8/8.6	166.2/175.2	12.1/13.7
中3男子	31.8/34.4	28.5/29.9	45.8/49.1	53.5/56.6	85.1/94.8	7.6/7.4	207.6/214.7	21.5/23.6
中3女子	23.8/25.6	24.4/25.2	47.9/49.8	47.9/49.3	53.3/62.1	8.7/8.5	170.7/178.6	12.1/14.5

令和3年度(2021年度)箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 偏差値一覧

単位	握 力 kg	上体起こし 回	長座 体前屈 cm	反復 横跳び 回	20mシャトルラン 回	50m走 秒	立ち幅跳び m	ボール投げ m
小1男子						46.2▲	48.7△	48.0△
小1女子						47.1▲	50.4	48.2△
小2男子						45.8▲	50.6	48.1△
小2女子						46.7▲	51.1	48.5△
小3男子						48.0△	50.3	46.2▲
小3女子						47.4▲	50.2	47.6▲
小4男子				47.9▲	46.5▲	47.9▲	50.3	46.5▲
小4女子				47.2▲	44.9▲	48.1△	49.8△	45.7▲
小5男子	50.5	46.5▲	50.3	46.2▲	45.9▲	49.0△	49.5△	46.3▲
小5女子	51.2	46.8▲	50.3	47.1▲	45.9▲	49.6△	50.3	47.0▲
小6男子	50.7	47.8▲	50.8	48.3△	46.4▲	49.2△	50.0	46.5▲
小6女子	50.8	48.1△	50.3	47.5▲	44.9▲	49.5△	48.8△	46.6▲
中1男子	47.9▲	47.5▲	46.7▲	45.6▲	46.1▲	47.7▲	47.7▲	47.0▲
中1女子	47.8▲	46.5▲	48.0△	44.7▲	44.3▲	45.2▲	43.7▲	44.8▲
中2男子	46.2▲	47.0▲	47.1▲	45.5▲	46.6▲	46.4▲	46.9▲	46.6▲
中2女子	46.9▲	47.1▲	48.5△	44.4▲	44.0▲	45.9▲	45.7▲	46.0▲
中3男子	46.3▲	47.6▲	46.9▲	45.2▲	45.9▲	47.2▲	46.9▲	46.1▲
中3女子	45.9▲	48.6△	48.0△	47.5▲	45.6▲	46.7▲	46.5▲	44.4▲

※全国平均を基準にした偏差値

※数字および記号の表記

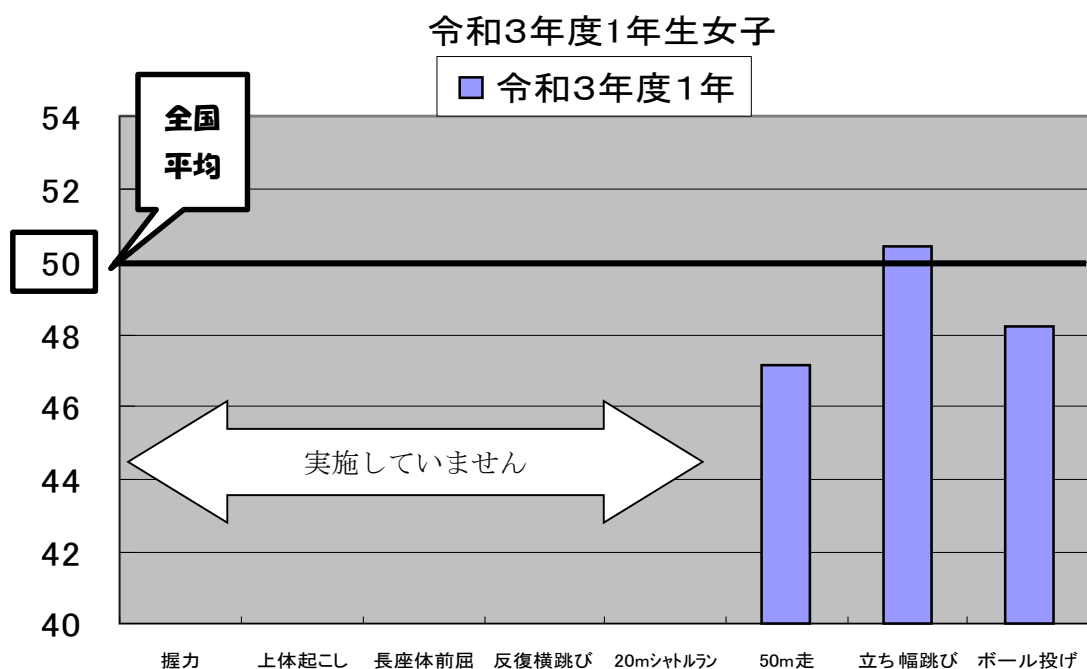
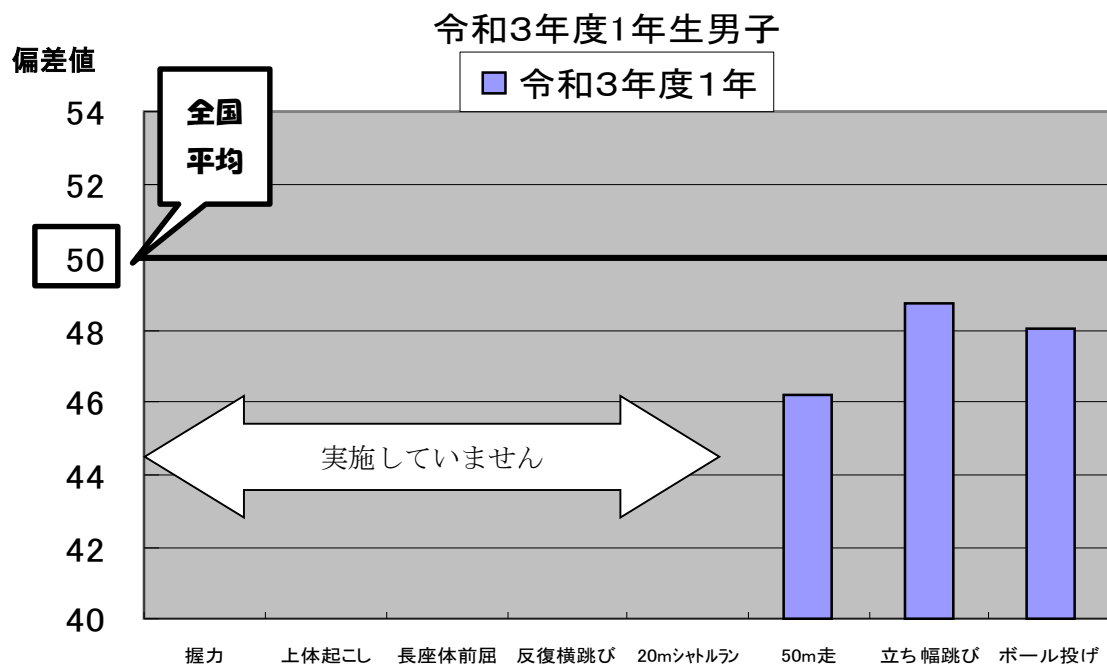
(50以上・・・白抜き 48以上50未満・・・△ 48未満・・・▲)

【概要】

- ◆ 小学校では、1年生男子、4年生女子、5年生男子、6年生女子以外の「立ち幅跳び」と実施学年男女全ての「握力」・「長座体前屈」で全国平均値を上回りました。
- ◆ 中学校では、全国平均値を上回る種目はありませんでした。
- ◆ 昨年度は新型コロナウイルスの影響で体力テストの12月の実施となりました。今年度の体力テストは4～5月に実施し、同じ時期に実施した令和元年度との比較では、小学校は体力向上傾向、中学校は体力低下傾向にあります。

1 年（小 1）

各種目結果の学年別経年比較

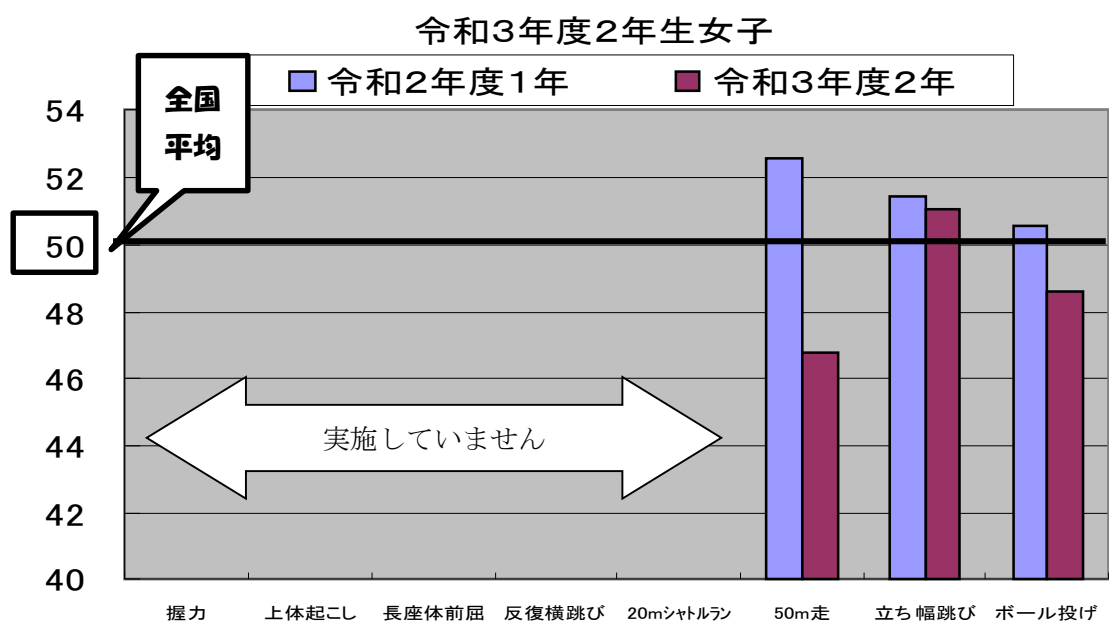
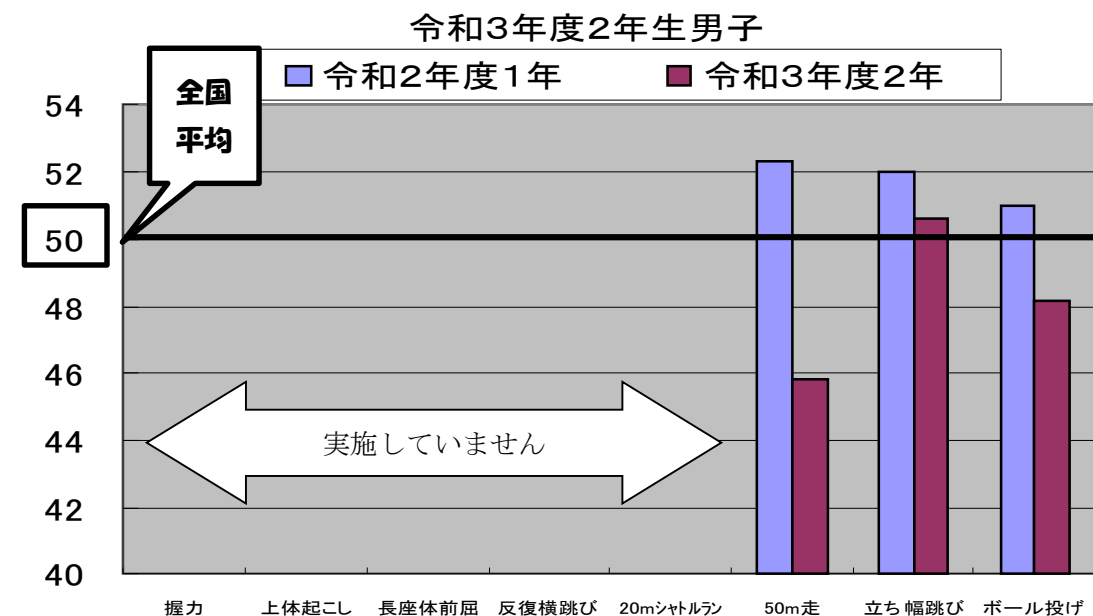


女子の「立ち幅跳び」以外は、全国平均値を下回っています。
また、男子女子共に「50m走」が全国平均値との差が大きく、課題であることがわかります。

50mの直線を全力で走ることには慣れていない面があると思われますが、就学前から、幼稚園・保育所、家庭等とも連携し、スピード面を高める運動に取り組む必要があります。

2年（小2）

各種目結果の学年別経年比較

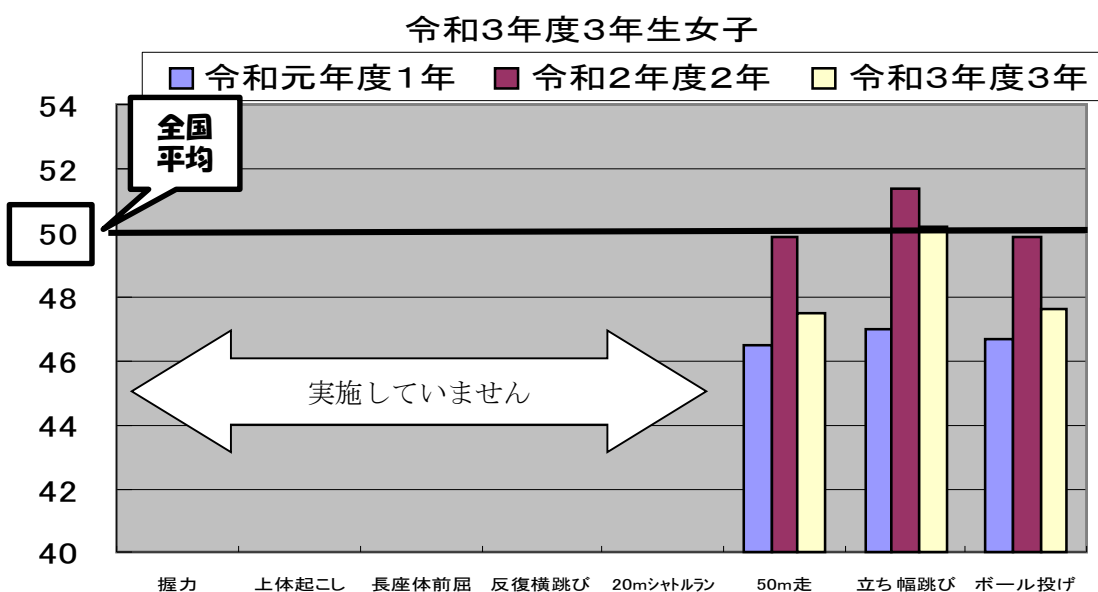
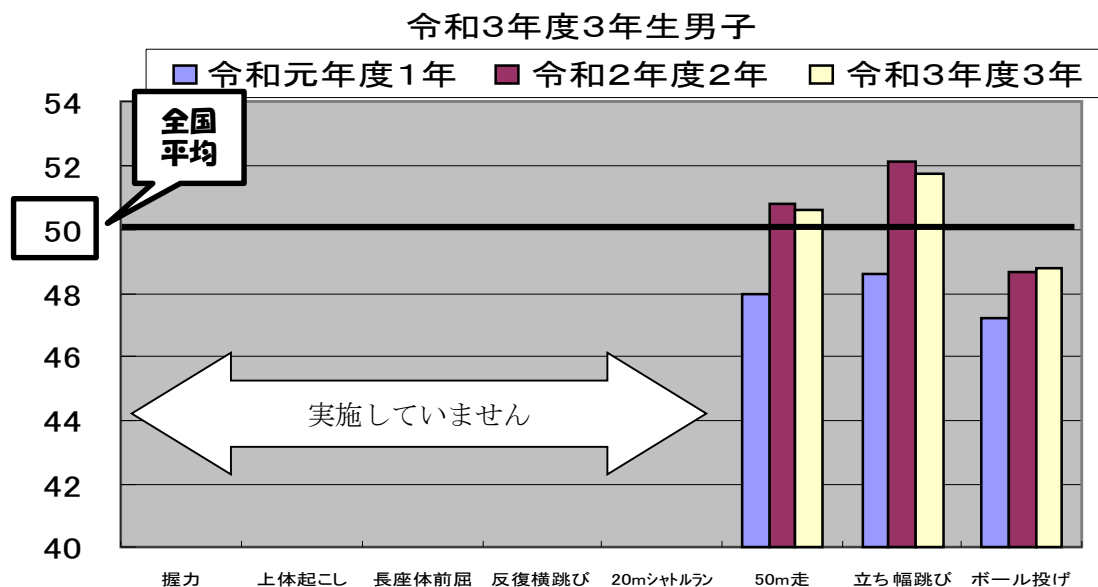


2年生男子女子共に「立ち幅跳び」では全国平均値を上回りましたが、全種目において、昨年度から数値が下がりました。

特に、男子女子共に「50m走」の下がり幅が大きく、スピード面に課題があります。体育の授業で鬼遊び等に取り組み、走る機会を増やしていくことで改善を図っていきます。

3 年（小 3）

各種目結果の学年別経年比較

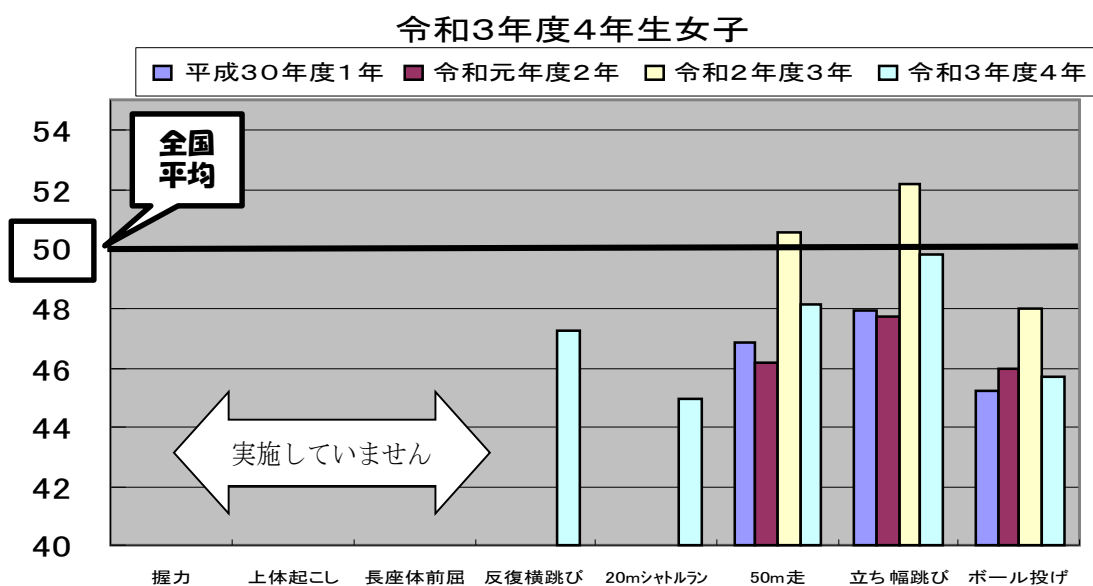
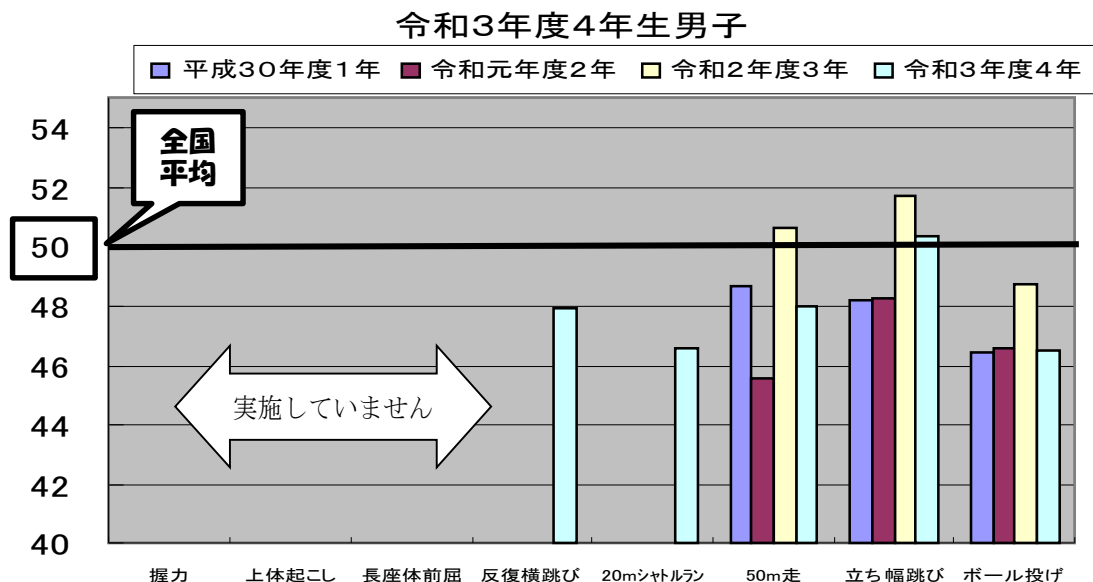


男子の「50m走」、「立ち幅跳び」、女子の「立ち幅跳び」は全国平均値を上回りました。
また、男子は前回の実施時期（昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により12月に実施）から日があまり経っていない中での実施となりましたが、昨年度から値に大きな変化はありませんでした。

女子も一昨年度との比較では、全種目の数値が高まっており、体力が向上している傾向にあります。

4 年（小 4）

各種目結果の学年別経年比較



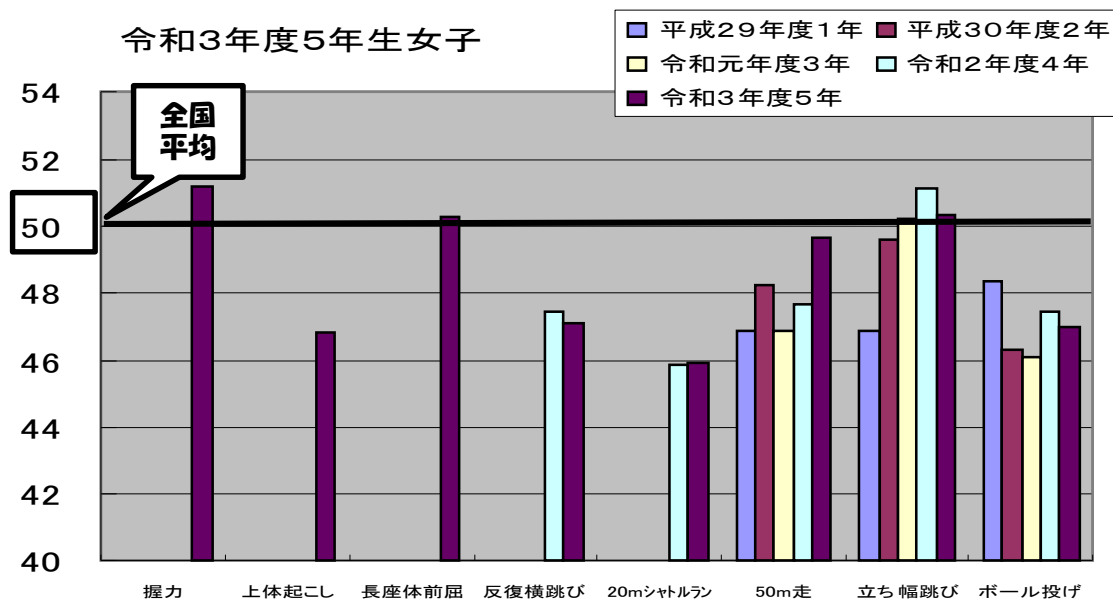
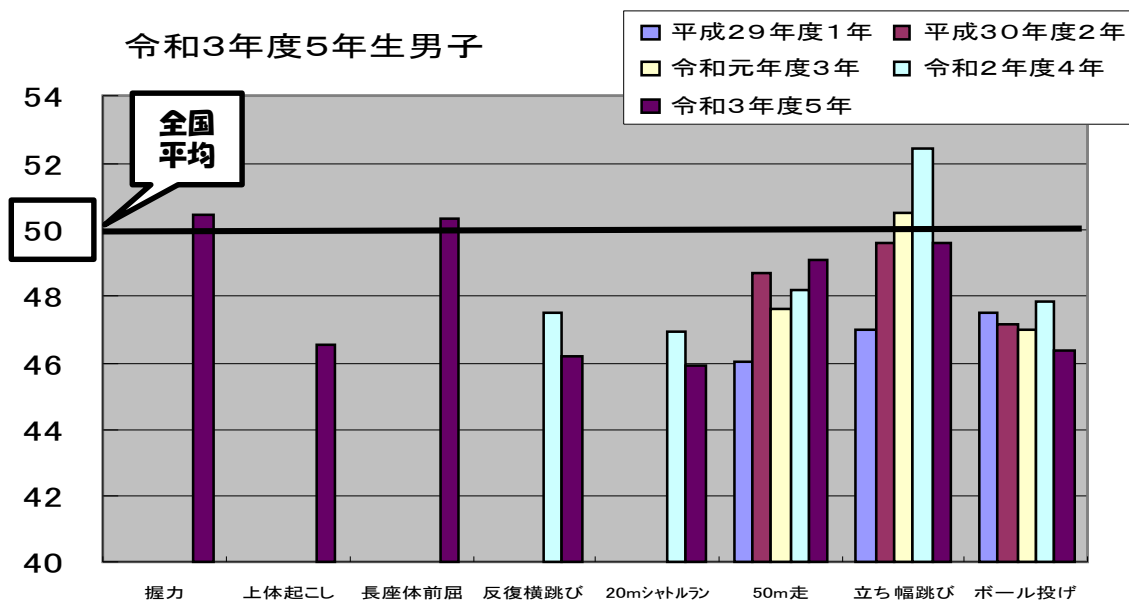
男子の「立ち幅跳び」以外は全国平均値を下回りました。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により12月実施だったこともあり、全種目において、昨年度から数値を下げていますが、一昨年度との比較では体力は向上傾向にあると言えます。

男子女子共に「20mシャトルラン」「ボール投げ」の数値が低く、持久力・巧ち性に課題があります。

5 年（小 5）

各種目結果の学年別経年比較



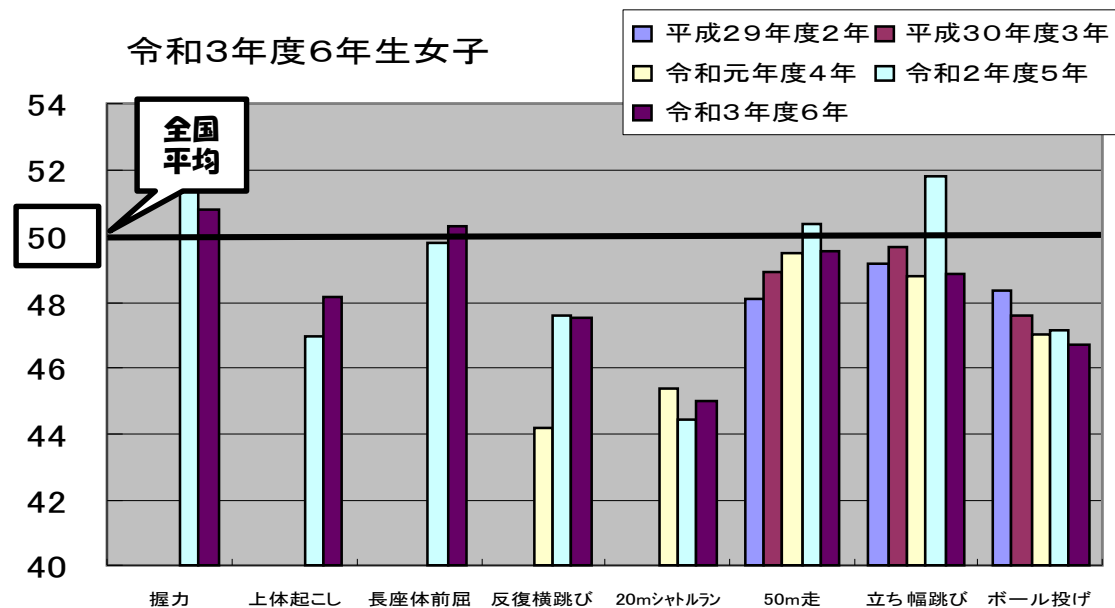
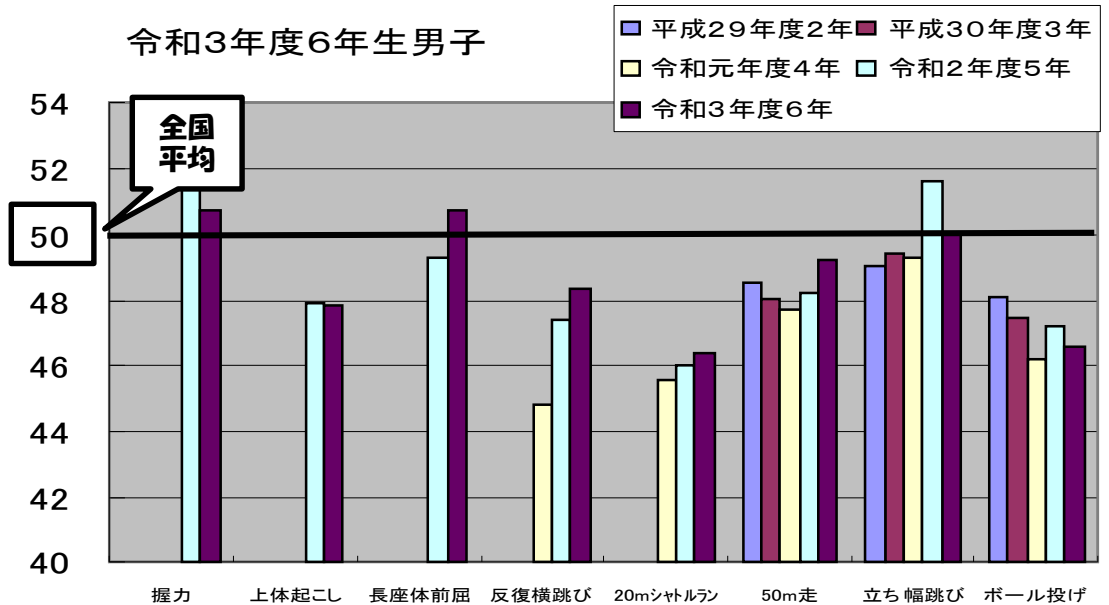
5年生から初めて実施する「握力」「長座体前屈」において、男女共に全国平均値を上回りました。一方で、「上体起こし」は、全国平均値と大きな差が見られました。

女子は前回の実施時期（昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により12月に実施）から日があまり経っていない中で、昨年度から値に大きな変化はありませんでした。

一方で、男子は「50m走」以外は下降傾向にあります。課題として捉え、改善を図っていきます。

6年（小6）

各種目結果の学年別経年比較

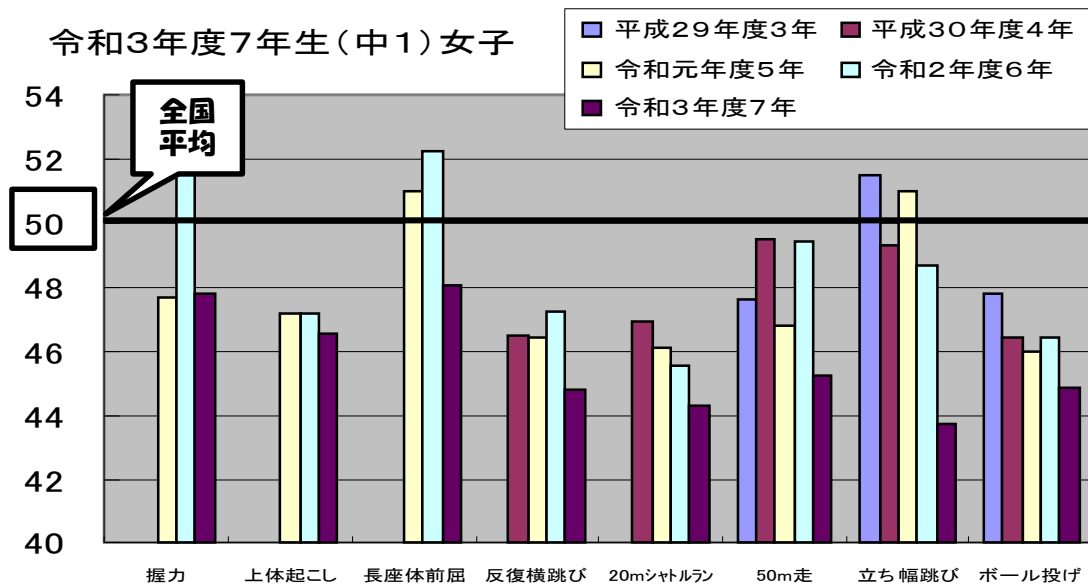
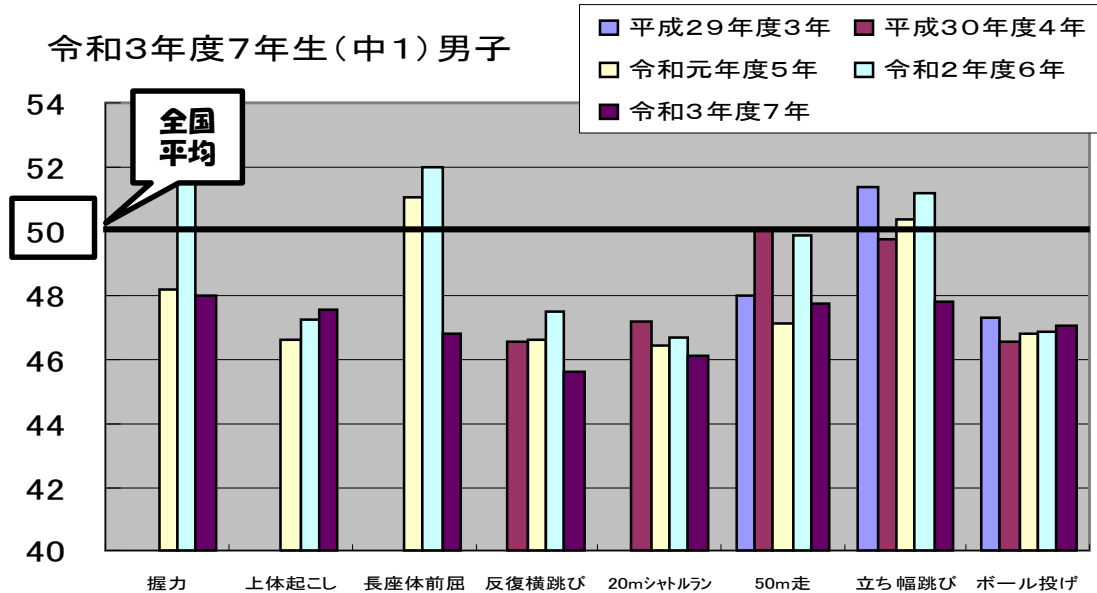


男子女子とも「握力」「長座体前屈」が、全国平均値を上回りました。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により12月実施だったこともあり、昨年度から数値を下げている種目が目立ちますが、一昨年度との比較では男女ともに向上傾向にあると言えます。「20mシャトルラン」は改善傾向にあるとは言え、全国平均値から大きく下回っており、引き続き、持久力が課題となっています。

7 年（中 1）

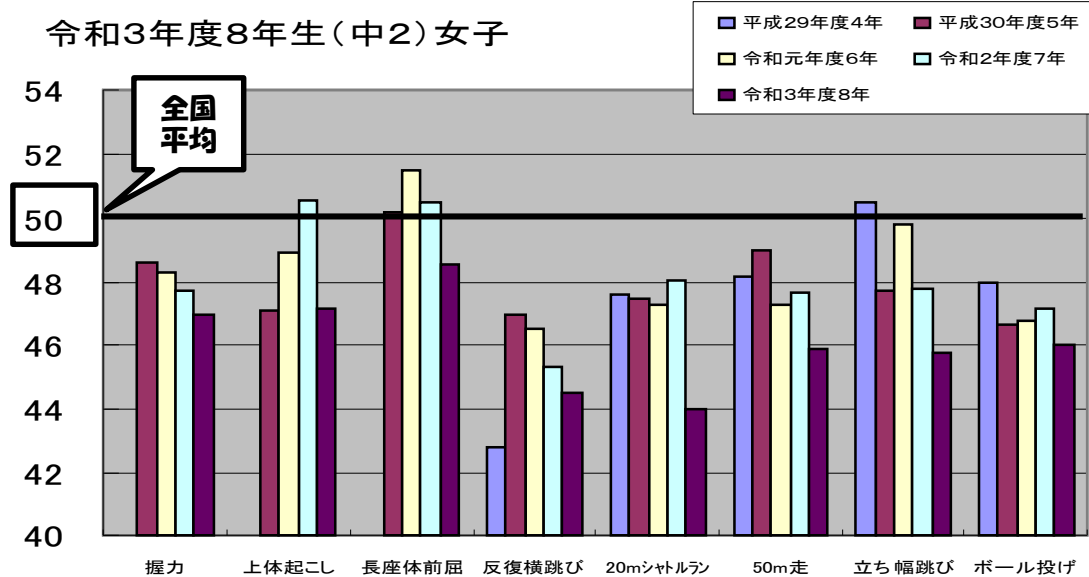
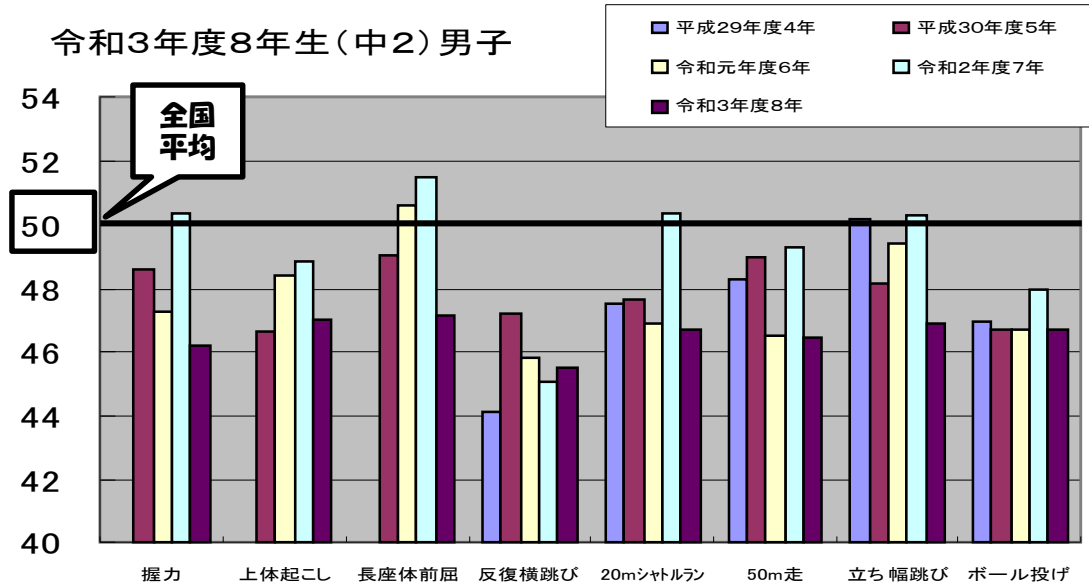
各種目結果の学年別経年比較



7年生では、男子女子ともに全国平均値を上回った種目はありませんでした。
 男子は「上体起こし」「ボール投げ」以外は下降傾向にあります。
 女子は全種目において下降傾向にあります。
 特に、「20mシャトルラン」は年々下がってきており、持久力における課題があります。

8 年（中 2）

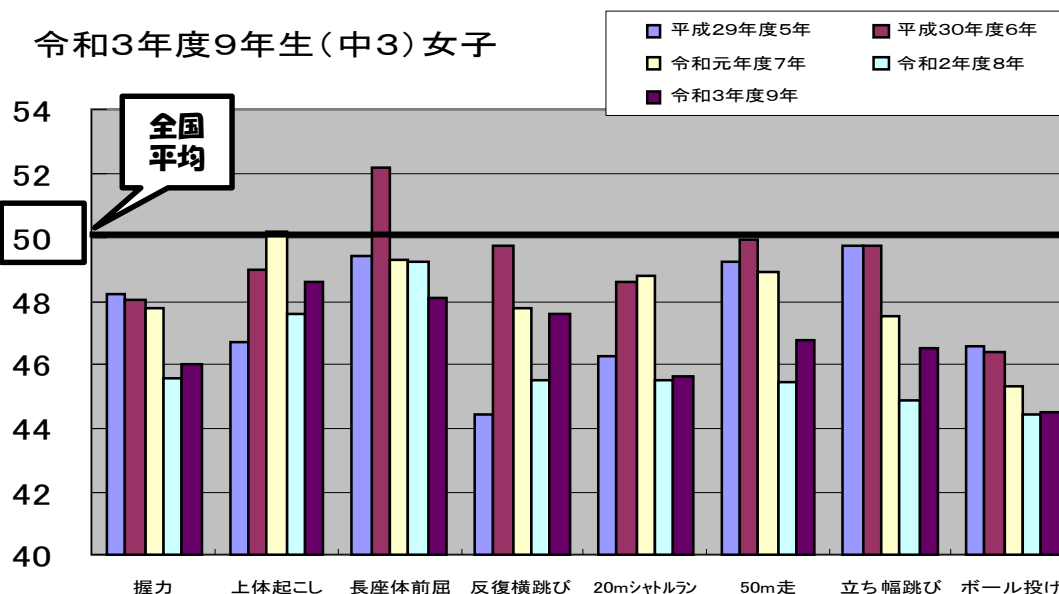
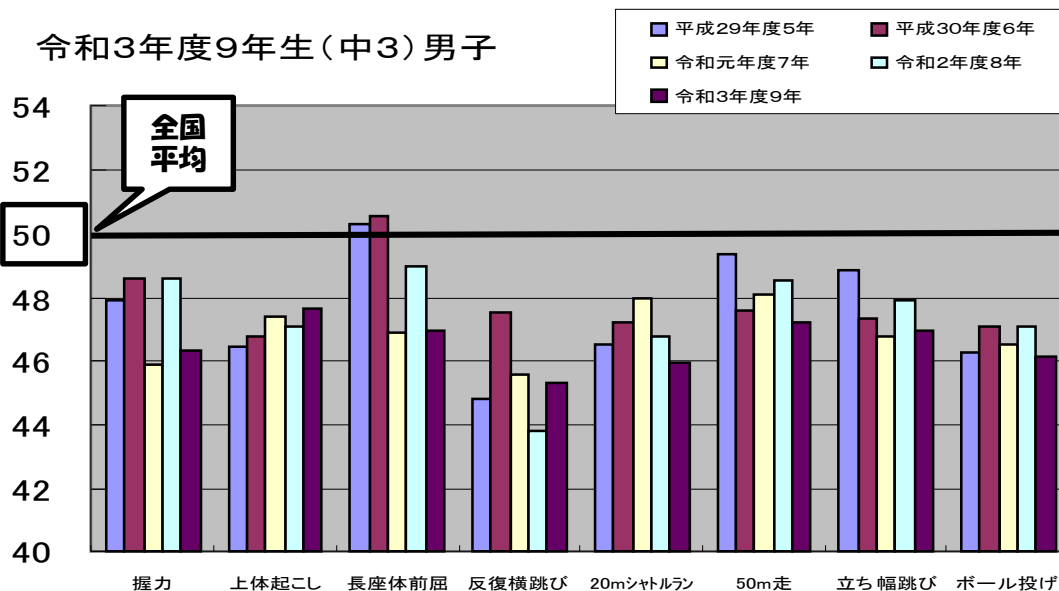
各種目結果の学年別経年比較



8年生では、男子女子共に全国平均値を上回った種目はありませんでした。
 男子女子共に、下降傾向にあります。
 女子は全体的に下がり幅が大きく、特に「20mシャトルラン」「反復横跳び」の数値が低く、持久力・俊敏性に課題があります。

9 年（中 3）

各種目結果の学年別経年比較

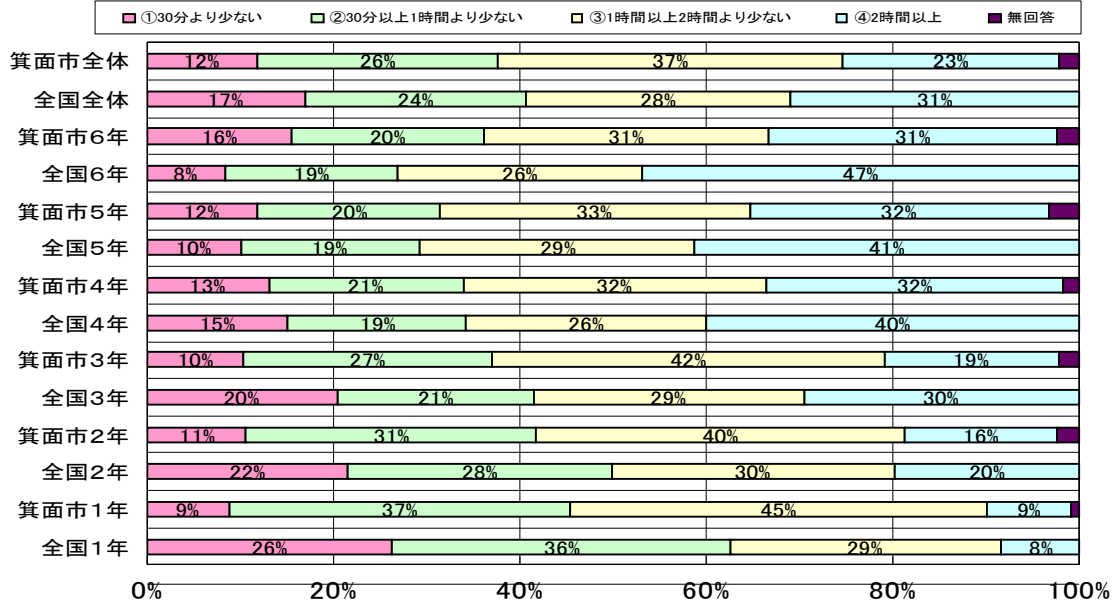


9 年生では、男子女子共に全国平均値を上回った種目はありませんでした。

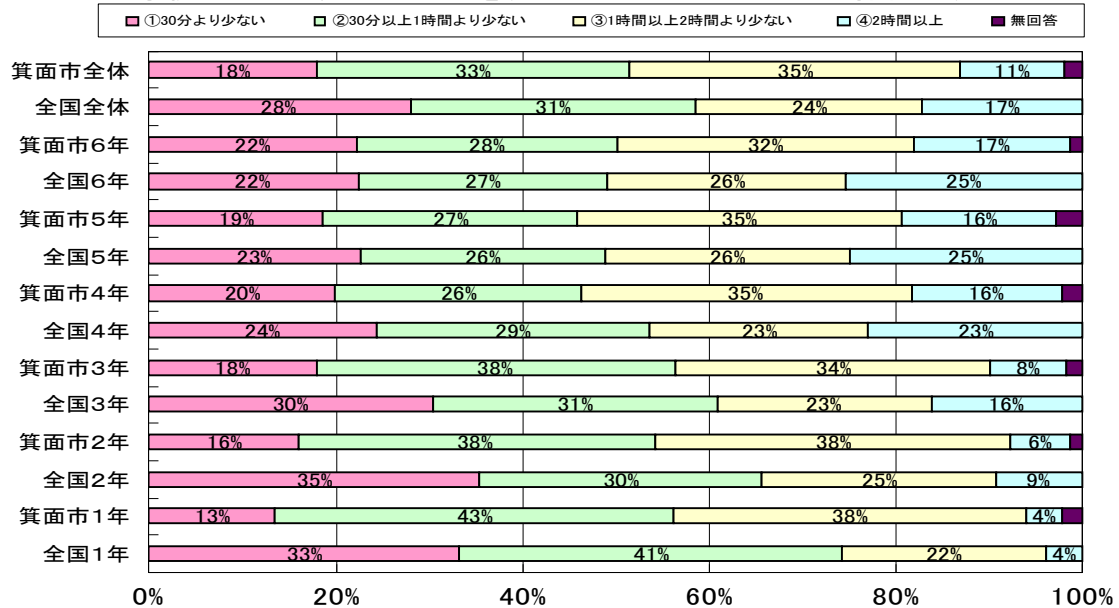
しかし、実施時期が 1 2 月だった昨年度と比べると、男子では下回る種目が多いものの、
下げ幅は小さく、女子においては「長座体前屈」以外の全ての種目で上回りました。

令和3年度 運動習慣等調査の結果から

小学校男子 運動やスポーツをするときは1日どのくらいの時間しますか

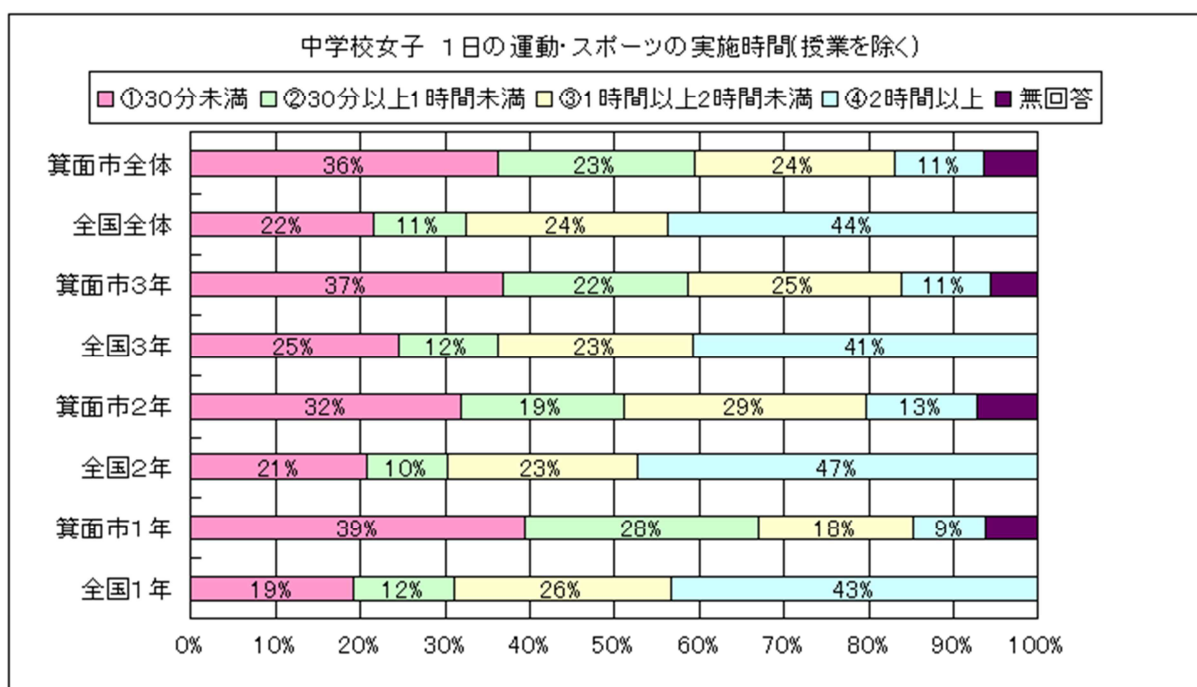
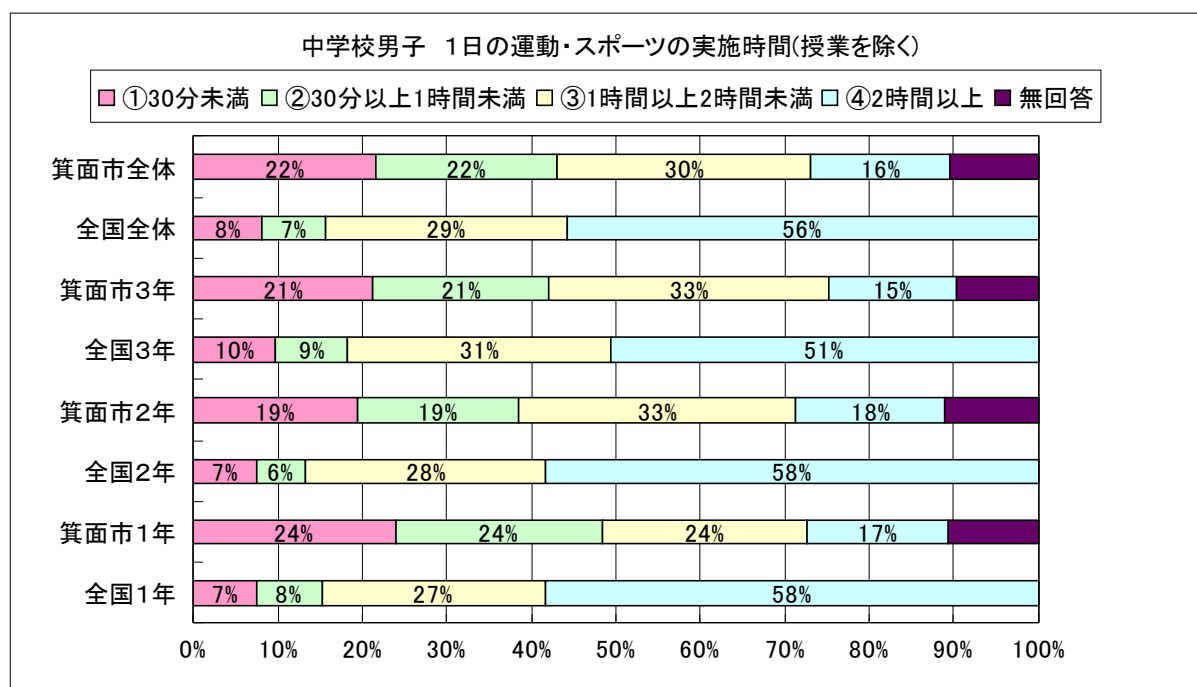


小学校女子 運動やスポーツをするときは1日どのくらいの時間しますか



小学生では、箕面市全体で「1日に運動やスポーツをする時間が30分より少ない」子どもたちの割合は女子では6年以外、男子では1～4年生で全国より少なく、低学年で特に低い傾向となっています。

また、「1時間以上運動やスポーツをする時間がある」子どもたちの割合は、男子の1～3年生、女子の1～4年生では全国と比べて多くなっており、こちらは学年が上がるにつれ運動やスポーツに親しむ時間が減少していく傾向があります。



中学男子では、1日に運動やスポーツをする時間が「1時間未満」の子どもたちの割合が、全国と比べて高く、学年が上がるにつれ、少しずつ運動に親しむ時間が減っています。また、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合は、全国平均値を大きく下回っています。

中学女子も男子と同様の傾向で、学年が上がるにつれ、運動やスポーツに親しむ時間が減少していく傾向があります。

令和3年度箕面体力・運動能力、運動習慣等調査まとめ

すすんで運動に親しむ子どもを学校・家庭・地域で育てよう！

今年度の「体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均値との比較では、箕面市の小中学生の体力は、各学年で依然として下回っている種目がほとんどです。しかし、小学校の学年や男女別によっては、全国平均値を上回る種目（握力・長座体前屈・立ち幅跳び）も見られます。また「運動習慣や健康意識についての調査」から、以下のことがわかりました。

- ・「**1日の運動時間が1時間以上**」が男女ともに中学校1年を除いて（女子全国1年：26% 箕面市1年：18% 男子全国1年：27% 箕面市1年：24%）**全国と比較しても多い！**しかし、「**1日の運動時間が2時間以上**」になると、**全国に比べて少なくなる！**
- ・「**運動やスポーツは大切**」という意識をもっている小中学生は、**体力合計点が高い！**
- ・「**体育の授業で運動のコツやポイントをつかむことができる**」小中学生は**体力合計点が高い！**



学校では主体的に運動できる取組を実施！

各学校では、体力調査の結果から見える課題をふまえ、体育科の授業改善を進め、体力向上に取り組んでいます。各学年の経年比較からもその結果が表れている種目もあります。今後も今回の体力調査の結果を受けて、いろいろな運動体験や機会も増やしつつ、さらに一人ひとりの子どもたちの体力向上をめざしていきます。また、運動習慣等調査と体力合計点の関係で、運動のコツやポイントをつかむことができる子どもたちは体力合計点が高いことから、子どもたち自身が主体的に学ぶ姿勢を大切に、自分自身で考え、いろいろ試しながら「**わかった！**」「**できた！**」「**たのしい！**」と感ぜられる体育の授業を実施していきます。しかし、学校で運動やスポーツに取り組める時間には限りがありますので、帰宅後や休みの日などに、家庭や地域の中でも運動する機会の確保が大切となってきます。

子どもといっしょに！ 大人もすすんで 運動やスポーツを楽しみましょう！



運動やスポーツに興味関心があり、「**好き！楽しい！**」と思える児童生徒は、積極的に体育の授業にも取り組むことができます。児童生徒が運動やスポーツに興味関心を持つには、ご家族と一緒に運動したり、スポーツを観戦したりすることが大切です。ぜひ、各地域でおこなわれている運動・スポーツの行事に子どもたちと一緒に積極的に参加していただければと思います。また、今年はオリンピック・パラリンピックが東京で開催されました。この機会に子どもたちと一緒に運動・スポーツに取り組んでみて下さい。箕面市から未来のメダリストを育てていきましょう。

さらに、就学前からさまざまな「運動・遊び」に親しませることが、それ以降の**体力向上**につながるということがわかっています。各中学校区内では、幼稚園や保育所とも連携を行い、体力向上に取り組み、生涯スポーツ社会の実現を進めていきます。